

# 令和7年度第2回日高山脈襟裳十勝国立公園協議会総会

日時：令和7年8月5日（火）13:00～14:30

場所：日高振興局4F講堂

（Web会議システム併用）

## 次 第

### 1. 開 会

### 2. 議 事

#### （1）審議事項

- 1) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）について
- 2) 本協議会の今後の進め方について

#### （2）報告事項

- 1) 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約（別添2）の変更について
- 2) 令和6年度の各構成員の取組報告について
- 3) 令和7年度の各構成員の取組報告・予定について
- 4) その他各構成員からの情報提供

### 3. その他

### 4. 閉 会

## 【配付資料】

### 構成員・出席者名簿

資料1－1　日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）

資料1－2　日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）の概要

資料2　今後の協議会の進め方について

報告資料1　日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約

報告資料2　令和6年度の各構成員の取組報告

報告資料3　令和7年度の各構成員の取組報告・予定

報告資料4　各構成員からの情報提供資料

（1）　登山道に通じる国有林林道の通行状況

（日高北部・南部・十勝西部森林管理署）

（2）　登山口簡易トイレ等設置・運用状況及び芽室岳登山会について

（日高町）

（3）　石丸謙二郎トークショー&記念幌尻岳登山について（平取町）

参考資料1　日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）に関する意見募集（パブリック・コメント）の結果

参考資料1（別紙）　ビジョン（案）への御意見の概要及びそれに対する考え方について

## 令和7年度第2回日高山脈襟裳・十勝国立公園協議会総会

## 出席者名簿

分野	所属名	役職名	構成員名（敬称略）	WEB
学識経験者	北海道大学大学院	教授	愛甲 哲也	○
国	日高北部森林管理署	署長	野木 宏祐	
	日高南部森林管理署	署長	渡邊 淳一	
	十勝西部森林管理署	署長	信田 孝広	
	北海道開発局	開発監理部 開発連携推進課 開発専門官	在田 尚宏	○
	北海道運輸局	観光部長	村上 浩之	
	北海道地方環境事務所	所長	中澤 圭一	
北海道	環境生活部	自然公園担当課長	島村 哲也（代理出席）	○
	日高振興局	局長	高見 芳彦	
	十勝総合振興局	局長	野口 正浩	
市町村	帯広市	帯広市長	米沢 則寿	○
	日高町	町長	大鷹 千秋	
	平取町	町長	遠藤 桂一	
	新冠町	町長	山本 政嗣	
	浦河町	町長	池田 拓	
	様似町	副町長	木下 行宏（代理出席）	
	えりも町	町長	大西 正紀	
	新ひだか町	町長	大野 克之	
	清水町	町長	辻 康裕	○
	芽室町	副町長	佐野 寿行（代理出席）	○
	中札内村	村長	川尻 年和	
	大樹町	副町長	松木 義行（代理出席）	○
	広尾町	副町長	及川 隆之（代理出席）	○
登山関係団体	十勝山岳連盟	会長	齊藤 邦明	
	日高山脈連盟	会長	藤田 博己	
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ	会長	田中 正人	
	十勝自然保護協会	事務局長	川内 和博（代理出席）	
観光関係団体	十勝観光連盟	専務理事	植松 秀訓（代理出席）	○
	日高管内観光連盟	会長	木田 尚孝	

【随行者】

分野	所属名	役職名	構成員名(敬称略)	WEB
国	日高北部森林管理署	総括事務管理官	長崎 隆憲	○
		事務管理官	伊藤 智哉	
	日高南部森林管理署	総括事務管理官	大水 貴博	○
		主任事務管理官	日野 道俊	
	十勝西部森林管理署	総括事務管理官	水谷 豊	
	北海道開発局	開発運営推進課 上席専門官	高田 賢一	○
		開発運営推進課 課員	岩田 梨生	○
		帯広開発建設部 技術管理監理長	飯田 孝	○
		室蘭開発建設部 技術管理監理長	長谷川 武春	○
	北海道運輸局	室蘭運輸支局長	遠藤 貴志	
		観光企画係長	経田 直哉	
		地域第一係長	咲間 太一	○
		国際第二係	志岐 朋生	○
北海道	環境生活部	自然環境課 公園利用係長	今 哲也	○
		自然環境課支師	菅原 史也	○
		環境生活課長	栗林 稔	
	日高振興局	環境生活課 自然環境係長	林 正敏	
		くらし・子育て担当部長	堀井 勉	
	十勝総合振興局	環境生活課長	内田 朋宏	
		環境生活課 主任	山内 雄大	
		都市環境部 参事	大橋 貴	○
市町村	帯広市	都市環境部 環境課長	西島 新一	○
		都市環境部 環境課 自然公園係長	関井 かおる	○
		経済部 観光交流課長	古井 健太郎	○

		地域経済課長	小野寺 孝	
	日高町	地域経済課 総括主幹	高橋 健	
	浦河町	商工観光課長	民部 宏治	
	様似町	商工観光課長	板谷 潤	
	新ひだか町	まちづくり推進課長	森 勝利	
		環境土木課長	橋本 直樹	○
	芽室町	環境土木課 生活環境係長	速水 洋之	○
	中札内村	産業課長	平澤 悟	
	広尾町	水産商工観光課長補佐	山田 雅樹	
自然保護団体	十勝自然保護協会	理事	植田 幹夫	

【事務局】

北海道地方環境事務所	次長	尼子 直輝	
北海道地方環境事務所	国立公園課長補佐	田畠 桂	
北海道地方環境事務所	国立公園課長補佐	相原 百合	○
帯広自然保護官事務所	上席自然保護官	柳田 邦玲雄	
	自然保護官補佐	谷水 亨	
新ひだか自然保護官事務所	自然保護官	草留 大岳	
	自然保護官補佐	城 辰之	
アジア航測株式会社		中山 里美	
		入江 潔	
		木本 朝美	
		高田 雄介	
		上山 沙恵子	

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)

令和7(2025)年●月●日

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会

## 目次

1. はじめに .....	2
(1)ビジョン策定の目的 .....	2
(2)対象区域 .....	2
(3)日高山脈襟裳十勝国立公園の概要 .....	4
2. 価値・魅力 .....	5
3. 現状と課題 .....	7
(1)保護に関する事項 .....	7
(2)利用に関する事項 .....	11
(3)管理運営体制に関する事項 .....	14
4. 基本理念 .....	16
(1)自然環境の厳正な保護 .....	16
(2)適正な利用の推進 .....	16
(3)連携・協働の推進 .....	16
5. 国立公園としてのビジョン(るべき姿、目指すべき将来像) .....	17
(1)原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園 .....	17
(2)利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園 .....	17
(3)みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園 .....	17
参考資料 .....	18
(1)参照文献 .....	18
(2)日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約・名簿 .....	21
(3)日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンの作成経緯 .....	26

## 1. はじめに

### (1) ビジョン策定の目的

日高山脈襟裳十勝国立公園は、2024(令和6)年6月25日に日高山脈襟裳国定公園とその周辺地域を含めて新たな国立公園として指定されました。本公園の誕生は、長年にわたり日高山脈を核とした自然環境等を保全し、適正に利用するとともに、文化を育んできた地域の関係者及び関係機関の取組が評価され結実したものです。

本公園を未来に引き継ぎより良い姿にしていくためには、本公園が目指す将来像を明確にし、その実現に向けて関係者が連携して取組を進めていく必要があります。

このため、関係者が連携する場として「日高山脈襟裳十勝国立公園協議会」を設置し、同協議会において本公園が目指すべきビジョンを策定しました。

今後、本ビジョンの実現に向けて本公園と繋がるすべての関係者ができることを持ち寄り、連携して取組を推進することにより、世界水準の国立公園を目指します。

### (2) 対象区域

日高山脈襟裳十勝国立公園全域を対象とします。



図1:日高山脈襟裳十勝国立公園 公園区域図

### (3)日高山脈襟裳十勝国立公園の概要

---

本公園は、南北およそ140kmに及ぶ日高山脈を中心とした陸域面積が日本最大の国立公園です。

本公園は、地殻変動を受けて形成された非火山性連峰を基盤に、山地を核として育まれた深く原生的な自然環境が広がる風景を有するものとして、国立公園に指定されています。地殻変動を受けて形成された山脈が内陸部から海まで延々と連なる雄大さと、国内最大の原生流域が存在していることが大きな特徴です。

## 2. 価値・魅力

日高山脈襟裳十勝国立公園の核心部となる日高山脈は「北海道の背骨」と呼ばれ、鋭い稜線から急峻な山腹を経て広大な山麓へと続き、そこに日本最大の原生流域が広がっています。その成り立ちは、北海道付近において2つのプレートの衝突が進行し、東側のプレートの地殻がめくれ上がるよう突き上げられたことに由来し、本来は地下深くにある地質の断面が連続的に地表に現れています。つまり、山脈を西から東へ横断すると、プレートの地殻最下部から地殻上部までの岩石を現在の地表で連続的に観察できる世界的に見ても珍しい場所です。また、ユネスコ世界ジオパークにも認定されているアポイ岳(標高810m)周辺には、地球深部(マントル)の様子を知ることができる新鮮なかんらん岩が見られます。

本公園はその特異な成り立ちとともに、海岸から高山帯までの大きな標高差と南北方向に長い特徴から、多様な環境を有し、生物多様性に富んでいます。広大な山域には、国指定天然記念物「沙流川源流原始林」をはじめとした自然林(天然林)が広がり、我が国最大規模のまとまりをもつ原生流域として特筆されます。

日高山脈北部では、最高峰である幌尻岳(標高 2,052m)をはじめ、1,900m を超える山々が連なり、稜線(風衝地)からカール地形(雪崩地や雪田など)に至る環境変化に応じて多様なお花畠(高山植物群落)が広がっています。山脈の中央部から南部にかけては 1,800m 台から 1,500~1,300m 台へ標高が低くなりますが、山頂・山稜の風衝地と雪崩地に高山植物群落が成立しています。日高山脈の高山植物相は、固有種ヒダカキンバイソウや隔離分布種ヒダカゲンゲなど、山脈の成り立ちや特異な地形・地質と関係して他山系とは異なる特徴が認められます。森林も多様であり、亜高山帯に広くダケカンバ林が発達するほか、中腹(亜高山帯)の亜寒帯性常緑針葉樹林と山麓(山地帯)の針広混交林、アポイ岳を含む南端部の山麓では、北海道では珍しいミツデカラデやアカシデなどが混生する冷温帯性落葉広葉樹林や針広混交林、さらにはキタゴヨウとアカエゾマツが混生するかんらん岩地と結びついた針葉樹林が広がっています。

日高山脈で育まれた動植物は、生命を終えるとやがて分解されて河川に流れ込み、豊かな栄養分を海に運び、魚介類や海藻などを育んでいます。その海で栄養を蓄えたサケ、サクラマス、アメマスなどは産卵のために川を遡上し次世代に命をつないでいます。また、河川の魚類は大型猛禽類などの食料にもなっています。このように、日高山脈を源流とし太平洋に注ぐ河川は、山岳から海に至る生態系のつながりを育んでいます。

また、日高山脈を源流とする河川の流域には、アイヌのコタン(集落)が形成され、アイヌの人々は、狩り場とした後背地や対岸に広がる原生林までを含めた一定領域をイオル<sup>1</sup>(伝統的生活空間)として、その中で動植物を活用して生業を営み、自然と共生して豊かな文化を育んできました。国指定名勝ピリカノカの構成資産「ポロシリ(幌尻岳や十勝幌尻岳)」や「オンネエンルム(襟裳岬)」をはじめ、祈りや崇拜の対象となってきた重要な場所も多くあります。また、アポイ岳やエンルム岬など、民話や伝説の題材になっている場所もあります。

<sup>1</sup> イオル:イワオロやイウォル、イオロなどとも呼ばれる、アイヌの伝統的生活空間。動物の捕獲や山菜採取など、自然と共生していたアイヌの人々の伝統的な生活の場。

動物相も多様で、ヒグマ、エゾシカなどの大型哺乳類が多数生息します。氷河期の遺存種といわれるエゾナキウサギも分布し、日高山脈の南部では、低標高(標高50m)にも生息が確認されています。襟裳岬付近の海岸には、豊かな海を象徴するように、ゼニガタアザラシなどの海生哺乳類が生息しています。また、本公園では、自然度の高い植生や河川に支えられ、生態系の上位種であるシマフクロウやクマタカなども生息しています。そのほか、国内ではアポイ岳にのみ生息するヒメチャマダラセセリ、陸産貝類の固有種アポイマイマイ、甲虫類の希少種チビゴミムシ類などが生息しています。

独特的な自然景観にも魅力があります。日高山脈の稜線部には、寒冷期に氷河が作り上げたカール(圈谷)、ホルン(氷食尖峰)、アレート(鋸歯状山稜)などの氷食地形が見られます。山麓部に形成された険しい峡谷や断崖も、新緑や紅葉シーズンを中心に美しい景観を見せてています。襟裳岬周辺では、海成段丘、海食崖、岩礁などの海岸地形が発達し、景勝地となっています。

さらに、本公園外の地域からも雄大な山々が連なる素晴らしい景観を見ることができます。

本公園の利用上の魅力として、日高山脈の山々は、沢登りや、やぶこぎを要するコースも多く、ここでしか味わえない本格登山の魅力があります。ただし、日高山脈の登山には、十分な体力、知識や経験、適切な装備と登山計画が必要です。一方、低標高域にあるアポイ岳などの山には登山道が整備され、日帰りで行くことのできる人気のコースとなっており、高山植物や日高山脈らしい山岳景観を楽しむことができます。近年は山麓で雄大な山岳景観を眺望するだけではなく、サイクリングやラフティング、クルーズなどの新しい利用がされつつあります。

そのほかに利用だけではなく、登山道やトイレ利用の適正化、高山植物群落の再生事業など、国立公園の指定前から各地域では地元を中心としてさまざまな環境保全の取組が行われています。

### 3. 現状と課題

#### (1) 保護に関する事項

##### ・高山生態系

山脈の成り立ちや特異な地形・地質と関係して、比較的狭い高山生態系には、日高山脈の生物多様性を特徴づける固有種や隔離分布種が多く生息・生育します。

高山生態系の多くは、山頂・山稜(風衝地)とカール地形(雪崩地と雪田)に発達しています。風衝地ではヒダカゲンゲ、ユキバヒゴタイなどの隔離分布種、雪崩地ではヒダカキンバイソウなどの固有種、雪田ではタカネクロスゲなどの隔離分布種が見られます。

特にアポイ岳は、ヒダカソウなどの固有種や希少な隔離分布種が集中し、国指定特別天然記念物に指定されているアポイ岳高山植物群落は、国内で唯一のヒメチャマダラセセリの生息地です。しかし、ヒダカソウなどの植物は度々盗掘の被害を受け、大きく個体数が減少しました。また、気候変動の影響と考えられる植生遷移の進行により、ハイマツ群落が増え、高山植物群落の衰退が進んでいます。ヒメチャマダラセセリもこの影響を受け、その個体数の減少が続いてきました。

日高山脈の高山帯全体においても、希少植物の盗掘被害のほか、エゾシカの増加や登山道逸脱による踏み付けなどによっても、貴重な高山生態系の基盤が脅かされています。

一方で、市民団体による高山植物の盗掘防止パトロールや登山者に対するマナーの啓発等が継続して行われているほか、地域ぐるみで高山植物群落の保全の取組もされています。



七つ沼カールと幌尻岳



カムイエクウチカウシ山のお花畠



ヒメチャマダラセセリ

##### ・森林生態系

日高山脈は広大な森林生態系を擁しており、多様な群落タイプが認められます。急峻な山腹斜面に発達するダケカンバ林、沙流川源流原始林の亜高山帯(亜寒帯)常緑針葉樹林、アポイ岳周辺にあるかんらん岩地のキタゴヨウ・アカエゾマツ林は、それぞれ原生林として特記されます。さらに全域にわたり亜高山帯(亜寒帯)には常緑針葉樹林、山地帯(冷温帯)には針広混交林や落葉広葉樹林が植生自然度の高い状態で分布しています。広大な森林が広がる本公園は、ヒグマやエゾシカのほか、天然記念物のクマゲラ、希少猛禽類であるクマタカやシマフクロウなどの重要な生息地になっており、今後もクマゲラ、クマタカ、シマフクロウが生息するためには大径木を含む発達した森林が必要になります。また、氷河期の生き残りと言われるエゾナキウサギも生息しています。

本公園内の国有林野の大部分は、林野庁北海道森林管理局が設定した日高山脈森林生態系保護地域となっており、そこでは、モニタリング等を通じて、多様かつ原生的な天然林からなる森林生態系を保護・管理するための長期的な取組が行われています。



沙流川源流原始林



クマゲラ



エゾナキウサギ

#### ・河川生態系

日高山脈に端を発する河川では、その水域や周辺環境の相互作用による河川生態系が見られます。河川に流れ込んだ落ち葉や水中の藻類などを水生昆虫やニホンザリガニが食べ、水生昆虫などをサケ科魚類である、サクラマス、アメマスのような降海魚、オショロコマのような陸封魚などが食べ、さらに魚類等を大型猛禽類などが食べるといった、食物連鎖(食う・食われるの関係)が形成されています。また、峡谷地形が随所に発達し、岩場にはヤシャゼンマイ、エゾトウウチソウ、ソラチコザクラなどの特色ある植物が生育し、下流の氾濫原にはケショウヤナギの群生地が見られます。さらに、原生的な森林と河川を有する本公園は、国内希少野生動植物種に指定されているシマフクロウの重要な生息地になっています。

一方で、源流域に陸封されているオショロコマについては、生息域の分断、外来魚との競合、捕獲圧等により、生息域の縮小や生息数の減少が危惧されています。シマフクロウが生息するためには、餌となる魚類が豊富に生息する河川と、営巣木となる大径木を含む河畔林が必要になります。また、巣立ったシマフクロウが新たに営巣することができるよう、好適な河川環境が連続的に分布する環境を整えていく必要があります。ケショウヤナギのように、洪水攪乱に依存する野生生物の存続に配慮していくことも、地域の生物多様性を保全するために必要であり、生物の生息・生育・繁殖の場を保全・再生・創出するなど長期的な取組が必要です。



沙流川渓谷



砂礫地の多い歴舟川



ソラチコザクラ



シマフクロウ

#### ・海浜や海洋の生態系

本公園南部の襟裳岬周辺には海岸断崖がとこどこ発達し、ヒダカミセバヤをはじめ、北方系のコハマギクやチシマキンバイと温帯系のキキヨウなどの希少な植物が混じって生育するほか、希少猛禽類のハヤブサが営巣しています。

また、襟裳岬付近の海岸には、豊かな海を象徴するゼニガタアザラシなどの海生哺乳類が生息しています。ゼニガタアザラシについては、特定希少鳥獣管理計画に基づきその個体群と沿岸漁業を含めた地域社会との将来にわたる共存を図る取組が進められています。

海洋の生態系は、河川を通して陸域の森林ともつながっており、その恵みが魚介類や海藻類を育んでいます。沿岸の岩礁帯には日高地方特産のミツイシコンブ(日高昆布)が豊富に生育することからコンブ漁やウニ漁が盛んで、その漁労風景は夏の風物詩にもなっています。

一方で、海水温の上昇など、海洋環境の変化に伴い漁獲される水産物に変化が見られています。また、海岸断崖の消失や改変も進んでおり、残された自然海岸を保持し、希少な動植物を保全することが必要です。



襟裳岬



ヒダカミセバヤ



ゼニガタアザラシ



コンブ干し

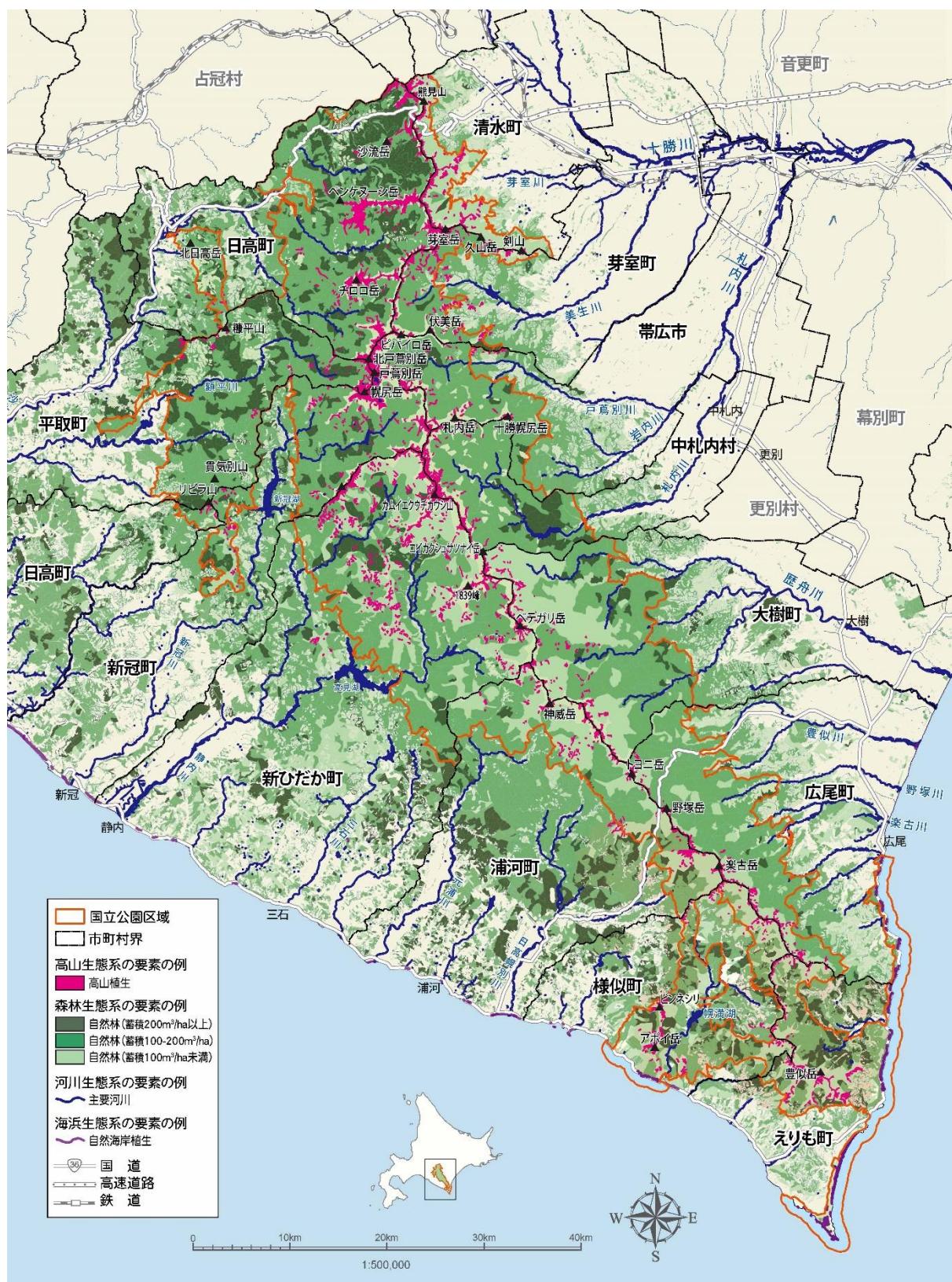


図2:日高山脈襟裳十勝国立公園 重要な生態系の要素の例を示した分布図

## (2)利用に関する事項

### ・登山利用等

日高山脈の山々には、原生的な自然や独特な山岳美に加え、沢登りや、やぶこぎなどを伴うここでしか味わえない本格登山を楽しめる魅力があります。一方で、登山口までのアクセスが容易ではない場所が多いこと、山中の避難小屋は限られていること、尾根に上がるために沢沿いの渡渉を伴うことなどの特徴もあります。怪我や遭難、ヒグマなどの野生動物との遭遇など様々な危険が伴うため、十分な体力、知識や経験、適切な装備と登山計画が必要です。また、植生の回復が難しい稜線部やホールでの高山植物の踏み付け、野営による裸地化や、焚火の跡、ゴミの投棄、トイレ跡などが確認されているため、地域ルールの設定や一層のマナー等の周知の取組とともに、登山者のルール・マナー遵守が求められます。

一方、低標高域にあるアポイ岳などの山には登山道が整備され、比較的容易に高山植物や山岳景観を楽しむことができ、人気のルートとなっています。ただし、アクセスのしやすい場所では、観光客の集中による自然環境への負荷も懸念されており、オーバーツーリズムの未然防止・抑制が必要と考えられています。



沢登りを伴う幌尻岳登山



アポイ岳登山



剣山登山

### ・眺望を生かした観光等

日高山脈の独特的な眺望にも魅力があります。山麓部の険しい峡谷や断崖もその一つで、札内川のピヨウタンの滝や幌満峠などの景勝地だけでなく、日高山脈を横断する国道274号や236号沿いなどでも、新緑や紅葉シーズンを中心に美しい風景を見ることができます。また、襟裳岬周辺では、海食崖、岩礁、砂浜などの海岸地形が発達し、日高耶馬渓や百人浜、フンベの滝などの景勝地があります。さらに、十勝平野や日高沿岸をはじめ本公園外の地域からも、国立公園の核心部である雄大な山岳景観が一望できます。

ただし、利用面で拠点になるエリアが限られていることから、一部の景勝地に観光客が集中し、オーバーユースとなる懸念があります。既存の利用拠点の魅力向上、拠点エリア間(例えば、複数のビジターセンター間)の連携に取り組むほか、山麓部における豊かな自然を活かした自然に対する学びや体験の場の提供、情報発信の充実等により、滞在型の周遊観光につながる広域連携や利用の分散を図ることが求められます。



秋の豊似湖



日勝峠



日高国際スキー場



十勝平野から日高山脈

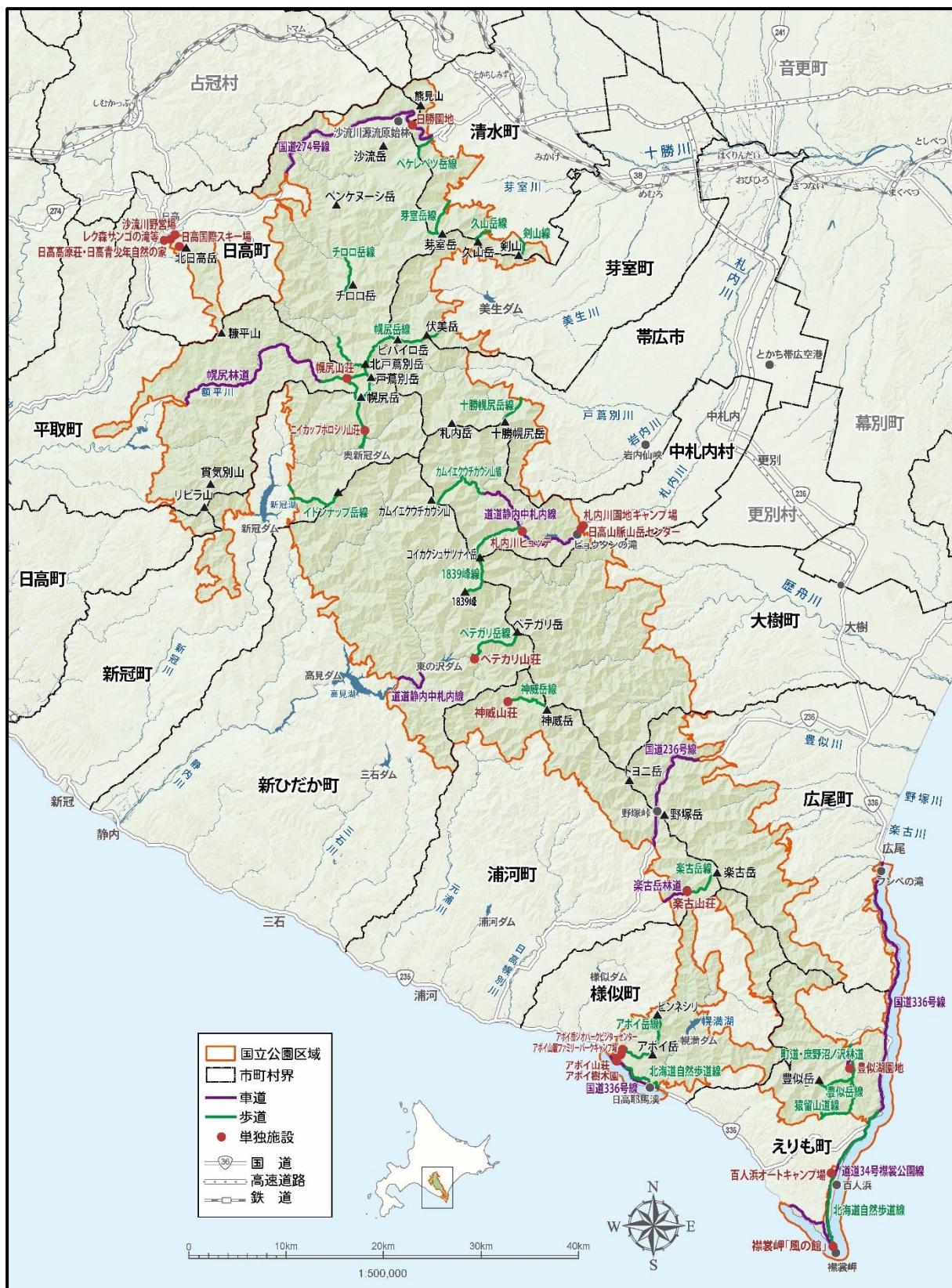


図3:日高山脈襟裳十勝国立公園 主要な路線・施設の分布図

### (3)管理運営体制に関する事項

#### ・関係機関・関係団体・関係者等(以下「関係者」という。)との連携

本公園には、ここでしか触れることができない多くの魅力や価値があると同時に、多くの課題があります。様々な課題に対応し、本公園をより良い姿にしていくためには、まずは関係者がそれぞれ理念を共有し、広域的に連携・団結して取り組んでいくことが欠かせません。国立公園の指定前から各地で問題意識を持って環境保全や自然体験活動等の取組が行われており、それぞれの地域で成果が蓄積されています。関係する行政機関や団体が多いことも本公園の特色の一つであり、お互いにできることを持ち寄り、連携することで課題解決に向けた大きな力になることが期待できます。さらに、少子高齢化が進行する社会において担い手の減少が課題となる中で、関係者に限らず、より多くの方々の力を集約する仕組み等を考えていく必要があります。

#### ・利用施設・拠点・体験プログラムの充実

本公園は、多様な自然・文化的要素からなり、一箇所を訪れただけではその魅力を十分に理解することは難しく、本公園全体の魅力を紹介する情報発信機能も充実してはいません。また、観光コンテンツ<sup>2</sup>等の対価の一部を保護に再投資される仕組みづくりも始まつたばかりです。

本公園の魅力である多様な自然景観と、生活・文化・歴史が凝縮された物語を知ることで、忘れられない唯一無二の感動や体験ができるような、博物展示施設や体験プログラム等を提供することは大切です。また、ツアーコースや自然体験プログラムの造成にあたっては、自然環境への負荷や文化的要素に配慮するとともに、自然環境モニタリング等により負荷の度合いを把握し、必要に応じて改善する仕組みを取り入れたり、利用者負担等により得られた対価の一部を保護の取組に活用(再投資)したりするなど、保護と利用の好循環を目指すことは、持続的な地域づくりにつながります。各拠点の観光コンテンツも相互に紹介できるような情報共有体制づくりも、本公園全体の魅力発信・広域周遊につながります。

それらをサポートする自然ガイドや登山ガイド、歴史・文化を継承する担い手の育成も求められています。拠点施設のユニバーサルデザイン<sup>3</sup>化等の施設整備も課題になっています。



<sup>2</sup> 観光コンテンツ:地域資源を活用して旅行者に提供する滞在・体験のプログラムやツアーやことを主に指す(「サステナブルな観光コンテンツの実践に向けた事例集(観光庁作成)」より引用)

<sup>3</sup> ユニバーサルデザイン:あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方(障害者基本計画(平成14年12月閣議決定)

### ・自然・歴史・文化の学習のための人材・ソフトの充実

本公園には、自然や歴史・文化など、多くの魅力や価値があるものの、まだそれらに対する地域住民の理解・関心は十分ではないと思われます。国立公園をより良い姿にしていくためには、地域住民を含めた関係者一同が本公園の価値・魅力の共通認識を保つことが重要です。これまでも関係する各市町村の博物展示施設などが中心となって、地域の自然や歴史・文化など普及啓発の取組が行われてきており、こうした取組を継続・補強・発展していくことが必要です。



アポイ岳ジオパークビジターセンターの展示

## 4. 基本理念

海から山脈の最深部まで連続する日高山脈襟裳十勝国立公園は、原生的で雄大な山岳景観を体感できる貴重な場であり、多くの人々を魅了し続けています。また、その優れた自然環境は、地域の人々の生活・産業の源泉として重要な機能を果たすとともに、特有の風土や豊かな文化を育み発展させてきました。

この貴重な自然環境を将来世代に継承し、後世までその恩恵を享受できるよう、以下の事項を基本として関係者が連携して厳正な保護と適正な利用を推進することにより、世界水準の国立公園を目指します。

### (1)自然環境の厳正な保護

本公園の最大の特徴である原生的な自然を重視するとともに、その自然が生活の源泉であり、地域の風土や文化を育んでいることを踏まえ、後世までこれらの恩恵を享受し続けられるよう、関係法令に準拠しながら厳正に保護する。

### (2)適正な利用の推進

本公園が持つ自然環境や文化景観としての価値を損なうことのないよう、誰もが本公園の価値とその保全の重要性を認識した上で、山、森、川、海への畏敬の念をもって行動し、適正な利用を推進する。また、想定する自然体験の質に応じた利用環境の整備及び管理を推進し、原生的な自然という特性を活かした質の高い体験を提供する。

### (3)連携・協働の推進

関係するそれぞれの地域、そこで活動する様々な関係者、これらの関係者が実施している様々な取組について、連携・協働を推進することにより、効率的で効果的な公園管理に繋がることから、本公園の魅力向上を図るため各地域間、各関係者間、各取組の連携を推進する。

また、本公園内には一般利用者が車両等で気軽に来訪できる場所が限定されていることから、公園外の施設の活用などについて関係者との広域連携の取組を推進し、その価値や魅力の理解促進に努める。

さらに、利用ルールの設定、限定体験の提供、利用者負担などに取り組み、適正な利用とその対価が保護に再投資される仕組みをつくるとともに、脱炭素化や地産地消などに取り組み、自然環境の保護と利用が持続可能な地域づくりにつながるようにする。

## 5. 国立公園としてのビジョン(あるべき姿、目指すべき将来像)

基本理念に基づき、国立公園の厳正な保護及び適正な利用の推進を図るため、次のような国立公園を目指して日高山脈襟裳十勝国立公園の協働型管理運営を進めていきます。

### (1)原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園

- 本公園の根幹である原生的な自然や豊かな生物多様性が、その機能とともに良好な状態で厳正に保持されている
- 山から海までつながる独自の生態系や景観の連続性が良好な状態で維持され、自然の恵みを提供している
- アイヌの世界観をはじめとした自然環境と結びついた文化景観としての価値が維持されている

### (2)利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園

- 核心部の上級者向け登山から山麓部での広域周遊まで、利用者の特性(目的・趣向)やレベル(技術・情報)に応じた幅広い楽しみ方があり、何度も訪れたくなる
- 環境に回復困難な負荷をかけないように、適正なゾーニングや利用上のルール・マナーが示され、利用者や事業者にその情報が行き届き守られている
- 利用者は、唯一無二の感動・体験をすることができ、その感動・体験を通じて、本公園を含む地域の自然、生き物、文化、暮らし等を学ぶことができる

### (3)みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園

- 多様な立場の関係する行政機関や団体が参画する協働型の管理運営体制等を活用しつつ、それぞれが役割を認識して主体的に取り組み、様々なアイデアを取り入れながら、相互に連携・協働した取組を推進している
- 原生的な自然や生物多様性を損なうことがないよう厳正に保護しながら、地域活性化が持続的に実現できるよう、保護と利用の好循環の仕組みや連携・協働した体制が構築されている
- 国立公園外を含む本公園に関係するあらゆる人々が、本公園の価値・魅力を共有して、知恵を出し合って連携して取り組んでいる

## 参考資料

### (1)参考とした文献

#### ○公園の指定書

- 環境省(2024)日高山脈襟裳十勝国立公園指定書[新規指定].環境省

#### ○公園の策定にかかる報告書類

- 財団法人国立公園協会(2007)平成19年度国立・国定公園総点検業務報告書.
- 財団法人国立公園協会(2008)平成20年度国立・国定公園総点検業務報告書.
- 財団法人国立公園協会(2009)平成21年度国立・国定公園総点検業務報告書.
- 株式会社建設技術研究所北海道支社・環境省北海道地方環境事務所(2013)平成24年度富良野芦別・日高山脈襟裳基礎資料収集分析業務報告書.
- パシフィックコンサルタント株式会社・環境省北海道地方環境事務所(2017)平成28年度日高山脈襟裳国定公園及び周辺地域調査業務報告書.
- 株式会社さっぽろ自然調査館・環境省北海道地方環境事務所(2018)平成29年度日高山脈襟裳国定公園及び周辺地域調査業務報告書.
- 株式会社さっぽろ自然調査館・環境省北海道地方環境事務所(2019)平成30年度日高山脈襟裳国定公園及び周辺地域調査業務報告書.
- 株式会社さっぽろ自然調査館・環境省北海道地方環境事務所(2020)令和元年度日高山脈襟裳地域に関する公園計画策定検討業務報告書.

#### ○日高山脈地域における調査報告書類

- 北海道(1978)日高山系自然生態系総合調査報告書(動物編).
- 北海道(1979)日高山系自然生態系総合調査報告書(総説・植物篇).
- 株式会社さっぽろ自然調査館(2008)平成20年度大雪・日高緑の回廊及び周辺に存する天然林等の森林環境等基礎調査委託事業報告書.北海道森林管理局
- 株式会社さっぽろ自然調査館(2008)平成20年度大雪日高地域の森林生態系保護地域等の設定等のための調査.北海道森林管理局
- 株式会社さっぽろ自然調査館(2011)日高山脈森林生態系保護地域設定報告書、大雪・日高緑の回廊設定報告書.北海道森林管理局
- 様似町(2021)特別天然記念物アポイ岳高山植物群落再生事業令和2年度実施報告書.様似町
- 様似町(2022)アポイ岳自然環境保全再生基本計画.様似町
- 渡辺 修・渡辺展之(2022)保護区域を効果的に拡大するには.自然保護589

#### ○植物に関する総合的な文献

- 伊藤浩司(編著)(1987)北海道の植生.北海道大学図書刊行会
- 林田光祐(1989)北海道アポイ岳におけるキタゴヨウの種子散布と更新様.北海道大學農學部演習林研究報告,4 6(1),177-190
- 高橋 誠(1990)日高山脈幌尻岳の高山植物.平取町商工観光課
- 西川洋子・宮木雅美・掘 繁久(1993)アポイ岳におけるお花畠の縮小とそれにともなう高山植物相の変化.北海道環境科学研究センター所報 20: 89-96
- 新版「えりもの植物」出版実行委員会(1999)新版えりもの植物.えりも町教育委員会
- 高橋 誠・田中正人(2003)アポイ岳の高山植物と山草.アポイ岳ファンクラブ
- 増沢武弘ほか(2005)特集Ⅰ:アポイ岳の植物群落-アポイ岳の高山植物群落の現状と将来について.日本生態学会誌(55)
- 佐藤 謙(2007)北海道高山植物誌.北海道大学図書刊行会

- 永光輝義(2008)雑種に起源する固有種—アポイカンバと北海道アポイ岳の高山植生の衰退(特集希少樹種の現状と保全). 生物科学 59(3), 143-148
- 西川洋子・住田真樹子・棘 庄輔(2009)温暖化にともなうアポイ岳ヒダカソウの開花時期の変化. 保全生態学研究 14(2), 211-222
- 佐藤 謙(2024)特集:日高山脈の魅力 日高山脈の植物概説. 北海道の自然 No.62, 14-19

○動物に関する総合的な文献

- 北海道環境科学センター(1996)ヒグマ・エゾシカ生息実態調査報告書Ⅱ野生動物分布等実態調査(ヒグマ: 1991~1995年度). 北海道環境科学センター
- 柳川 久・山田知江美・植田幹夫・市川利美(2004)北海道十勝・日高地方の翼手類相(3)えりも町猿留川上流部における捕獲記録. 森林野生動物研究会誌 30, 21-27
- 宮腰靖之(2007)サケ・マス類の生息環境と資源増殖に向けた取り組み. 第4回河川環境と魚類に関するセミナー
- 川辺百樹(2008)北海道におけるエゾナキウサギの分布. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告30号
- Tomoki Sakiyama, Junko Morimoto, Osamu Watanabe, Nobuyuki Watanabe, Futoshi Nakamura (2021) Occurrence of favorable local habitat conditions in an atypical landscape: Evidence of Japanese pika microrefugia. Global Ecology and Conservation 27

○地質に関する総合的な文献

- 高橋功二・鈴木 守(1986)5万分の1地質図幅「日高」および同説明書. 北海道立地下資源調査所, 44p
- 蟹江康光・酒井 彰(2002)5万分の1地質図幅「浦河」および同説明書. 地質調査所
- 松下勝秀・鈴木 守(1962)5万分の1地質図幅「農屋」および同説明書. 北海道立地下資源調査所, 31p
- 北海道立地下資源調査所(1978)5万分の1地質図幅「岩知志(札幌-45)」および同説明書. 北海道立地下資源調査所, 46p
- 和田信彦・高橋功二・渡辺順・蟹江康光(1992)5万分の1地質図幅説明書『三石』および同説明書. 北海道立地下資源調査所, 73p
- 吉田 尚・松野久也・佐藤博之・山口昇一(1959)5万分の1地質図幅「比宇(札幌-56)」および同説明書. 北海道開発庁, 54p
- 橋本誠二・鈴木 守・小山内熙(1961)5万分の1地質図幅「幌尻岳(釧路-50)」および同説明書. 北海道立地下資源調査所, 46p
- 産業技術総合研究所地質調査総合センター(2002)地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)「浦河地域の地質(釧路-69)」. 北海道立地下資源調査所, 43p
- 松野久也・山口昇一(1958)5万分の1地質図幅および同説明書『静内』. 北海道開発庁, 36p
- 酒井 彰・蟹江康光(1986)地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)「西舎地域の地質」. 地質調査所
- 石城謙吉・福田正己編(1994)北海道・自然のなりたち. 北海道大学図書刊行会, 228p
- 伊藤谷生・在田一則・井川崇(1998)日高山脈に島弧の衝突をみる 反射法地震探査で島弧深部構造に挑む. 科学 vol.68, 72-78. 岩波書店
- Kazunori Arita, Jinichiro Maeda and Kiyoaki Niida(2003)Deep-Seated Plutonic and Metamorphic Rocks of the Hidaka Mountains, Hokkaido. IUGG 2003 Field Trip Guidebook. The Volcanological Society of Japan, 265-308
- 在田一則(2006)日高山脈と夕張-芦別山地の生い立ち. 北海道の自然第 44 号, 36-45. (社)北海道自然保護協会
- 小山内康人・大和田正明・島 剛志(2007)日高衝突帯下部地殻の岩石構成と変形運動. 地質学雑誌 113 卷補遺, 29-50.
- 在田一則(2009)沙流川流域周辺はなぜ土砂流出が多いか?—地質学的検討. 北海道の自然第 47 号. (社)北海道自然保護協会

- 在田一則(2010)日高山脈の生い立ち-異常な土砂流出に関して.労働文化,11-17
  - 在田一則(2024)日高山脈の生い立ちと地形の特徴.北海道の自然No.62,7-13
- 利用に関する総合的な文献
- 宮坂省吾・田中実・田近淳・中川光弘・岡 孝雄(2011)札幌の自然を歩く[第3版]-道央地域の地質あんない.北海道大学出版会
  - 駒井千恵子・三浦忠雄(1998)フィールドガイド日高路.北海道新聞社
  - 様似町(2010)アポイ岳ジオパークガイドブック.様似町
  - 梅沢 俊(2012)北の花名山ガイド.北海道新聞社
  - 梅沢 俊・菅原靖彦・長谷川哲(2020)最新第3版北海道夏山ガイド4日高山脈の山々.北海道新聞社
- 保全に関する総合的な文献
- 佐藤 謙(1993)生物の多様性の保護を熟考した緑化を!百人浜緑化問題.北方林業45(8):13-16
  - 高橋 健(2001)日高山脈の魅力とファンクラブの活動.北海道の自然39,18-22 (社)北海道自然保護協会
  - 北海道自然保護協会(2006)日高山脈と夕張山地を国立公園とする要望書.北海道の自然44,46 (社)北海道自然保護協会

## (2)日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約・名簿

---

### 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約

#### (名称)

第1条 本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園協議会と称する。

#### (目的)

第2条 本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園の保全と利用の目標を示した国立公園ビジョンを策定するとともに、その実現を目指して、構成員が連携した取組を推進することにより、本公園の優れた自然環境の保全と適正な利用を推進することを目的として設置する。

#### (協議事項)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事項を協議する

- (1) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンに関する事項
- (2) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンの実現に向けた管理運営方針及び行動計画に関する事項
- (3) 前号の行動計画に基づく取組の実施に関する事項
- (4) その他、前条の目的の達成のために必要な事項

#### (構成)

第4条 本会は、別添1に掲げる機関、団体等により構成する。

#### (会長)

第5条 会長は、北海道地方環境事務所長が務める。

#### (総会)

第6条 総会は、年1回開催するほか、会長の招集により必要に応じて開催する。

- 2 総会の議長は、会長が務める。
- 3 総会は、第3条の事項について協議する。

#### (幹事会)

第7条 本会に、幹事会を設置する。

- 2 幹事会は、必要に応じて事務局が招集する。
- 3 幹事会の構成員は、別添2による。
- 4 幹事会は、総会の議事に関する予備的協議、その他連絡調整を行う。
- 5 幹事会は、必要に応じ別添3のアドバイザーを招聘し意見を聴くことができる。

#### (部会)

第8条 本会に、部会を設けることができる。

- 2 部会の設置及び運営に必要な事項は、総会において決定する。
- 3 部会は、必要に応じ別添3のアドバイザーを招聘し意見を聴くことができる。

(事務局)

第9条 本会の事務局を、北海道地方環境事務所国立公園課に置く。

- 2 事務局は、会の庶務を行う。

附則 この規約は、令和6年8月27日から施行する。

## 別添 1

機関・団体等	構成員
学識経験者	中村 太士（北海道大学名誉教授）
	愛甲 哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署長
	日高南部森林管理署長
	十勝西部森林管理署長
	北海道開発局開発監理部開発連携推進課長
	北海道運輸局観光部長
北海道	北海道地方環境事務所長
	環境生活部長
	日高振興局長
市町村	十勝総合振興局長
	帯広市長
	日高町長
	平取町長
	新冠町長
	浦河町長
	様似町長
	えりも町長
	新ひだか町長
	清水町長
	芽室町長
	中札内村長
登山関係団体	大樹町長
	広尾町長
自然保護団体	十勝山岳連盟会長
	日高山岳連盟会長
観光関係団体	アポイ岳ファンクラブ会長
	十勝自然保護協会 共同代表
	十勝観光連盟会長
	日高管内観光連盟会長

## 別添2

機関・団体等	幹事会構成員
有識者	中村 太士（北海道大学名誉教授）
	愛甲 哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署長
	日高南部森林管理署総括事務管理官
	十勝西部森林管理署総括事務管理官
	北海道開発局開発監理部開発連携推進課開発企画官
	帯広運輸支局 首席運輸企画専門官(企画輸送・監査担当)
	室蘭運輸支局 首席運輸企画専門官（総務企画担当）
北海道	北海道地方環境事務所国立公園課長
	環境生活部自然環境局自然環境課自然公園担当課長
	日高振興局環境生活課長
市町村	十勝総合振興局環境生活課長
	帯広市都市環境部環境室環境課長
	日高町日高総合支所地域経済課長
	平取町観光商工課長
	新冠町企画課長
	浦河町商工観光課長
	様似町商工観光課長
	えりも町産業振興課長
	新ひだか町総務部まちづくり推進課長
	清水町農林課長
	芽室町環境土木課長
	中札内村産業課長
登山関係団体	大樹町住民課長
	広尾町水産商工観光課長
自然保護団体	十勝山岳連盟会長
	日高山岳連盟会長
観光関係団体	アポイ岳ファンクラブ会長
	十勝自然保護協会事務局長
観光関係団体	十勝観光連盟事務局長
	日高管内観光連盟事務局長

(アドバイザー)

学識経験者  
アイヌ文化関係団体  
登山関係団体又は山岳ガイド事業者  
遭難対策関係団体  
自然保護関係団体  
観光関係団体又は観光事業者  
交通事業者  
経済関係団体  
金融関係団体  
その他、協議会が認める者

### (3)日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンの作成経緯

日時	会議名	概要
令和3年2月17日	日高山脈襟裳地域の国立公園指定に関する関係自治体連絡会(第1回)	国立公園ビジョンの検討開始
令和3年7月26日	日高山脈襟裳地域の国立公園指定に関する関係自治体連絡会(第2回)	国立公園ビジョン(骨子案)提示
令和4年2月4日	日高山脈襟裳地域の国立公園指定に関する関係自治体連絡会(第3回)	国立公園ビジョン(骨子案)にかかる意見交換
令和6年10月11日	令和6年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第1回幹事会	国立公園ビジョン(骨子案)にかかる意見交換
令和6年12月20日	令和6年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第2回幹事会	国立公園ビジョン(素案)にかかる意見交換
令和7年2月19日	令和6年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第3回幹事会	国立公園ビジョン(素案修正版)にかかる意見交換
令和7年5月21日 ～6月15日	国立公園ビジョン(案)のパブリック・コメント(意見募集)	
令和7年6月23日	令和7年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第1回幹事会	国立公園ビジョン(修正案)にかかる意見交換
令和7年8月5日	令和7年度第2回日高山脈襟裳十勝国立公園協議会総会	国立公園ビジョン策定(予定)

- 「ビジョン」は、公園計画を踏まえた公園の望ましい姿、公園が提供すべきサービス、公園の価値や保全・利用の目標をわかり易く示したものであり、地域の実情に即した国立公園の適正な保護及び利用の推進を図る。
- 日高山脈襟裳十勝国立公園を未来に引継ぎより良い姿にしていくため、関係者が連携して取組を進めていく。

※国立公園管理運営計画作成要領及び本ビジョン案より

## ■ 構成

- はじめに(目的、対象区域、本公園の概要)
- 価値・魅力(地形・地質、山・川・海と生物多様性、原生流域、アイヌ文化)
- 現状と課題(保護、利用、管理運営体制)
- 基本理念(厳正保護、適正利用、連携・協働の推進)
- 国立公園としてのビジョン(あるべき姿、目指すべき将来像)

## ■ 5 国立公園としてのビジョンのポイント

### (1) 原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園

- 本公園の根幹である原生的な自然や豊かな生物多様性を厳正に保持
- 山から海までつながる独自の生態系や景観の連続性を維持し、自然の恵みを提供
- アイヌの世界観をはじめ自然環境と結びついた文化景観としての価値を維持

### (2) 利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園

- 核心部の上級者向け登山から山麓部での広域周遊まで幅広い楽しみ方、何度も訪れたくなる
- 適正なゾーニングや利用上のルール・マナーについての情報が行き届き守られる
- 唯一無二の感動・体験を通じて、自然、生き物、文化、暮らし等を学ぶ

### (3) みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園

- それぞれが役割を認識して主体的に取り組み、相互に連携・協働した取組を推進
- 原生的な自然や生物多様性を損なうことがないよう厳正に保護しながら、地域活性化を持続的に実現
- 関係するあらゆる人々が、価値・魅力を共有して、知恵を出し合う

#### 【検討体制】

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(総会/幹事会)R6.8設置

- 目的：  
日高山脈襟裳十勝国立公園の保全と利用の目標を示した国立公園ビジョンを策定するとともに、その実現を目指して、構成員が連携した取組を推進することにより、本公園の優れた自然環境の保全と適正な利用を推進
- 構成：  
行政機関(北海道地方環境事務所(会長)、森林管理署、北海道開発局、北海道運輸局、北海道、関係13市町村)、登山関係団体、自然保護団体、観光関係団体、有識者



#### 【検討経緯】

- R3.2～R4.2 関係自治体連絡会(3回)：骨子案の作成
- R6.10～R7.2 幹事会(3回)：素案の作成、意見交換案のパブリック・コメント
- R7.5～6 幹事会(1回)：修正案の議論
- R7.6 総会：ビジョンの決定(予定)
- R7.8

今後

ビジョンや管理運営方針等に基づき、自然環境の保全、利用施設の整備及び維持管理、利用者サービスの提供等の具体的な内容と関係者による役割分担の整理を進める

# 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）紹介

## 構成（目次）

### 1.はじめに

- (1) ビジョン策定の目的
- (2) 対象区域
- (3) 日高山脈襟裳十勝国立公園の概要

### 2.価値・魅力

### 3.現状と課題

- (1) 保護に関する事項
- (2) 利用に関する事項
- (3) 管理運営体制に関する事項

### 4.基本理念

- (1) 自然環境の厳正な保護
- (2) 適正な利用の推進
- (3) 連携・協働の推進

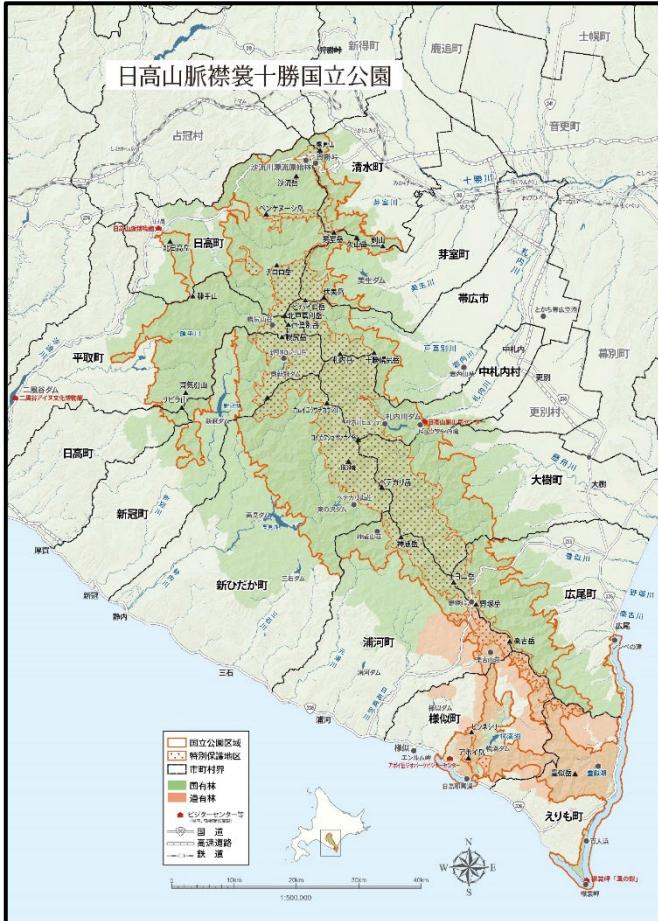
### 5.国立公園としてのビジョン（るべき姿、目指すべき将来像）

- (1) 原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園
- (2) 利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園
- (3) みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園

## 参考資料

# 1. はじめに

- 日高山脈襟裳十勝国立公園は、地殻変動を受けて形成され、海まで連なる雄大な日高山脈を中心とし、国内最大の原生流域を擁する公園。
- 本ビジョンは、本公園の全域を対象に、本公園を未来に引き継ぎより良い姿にしていくため、目指す将来像を明確にし、関係者が連携して取組を進めていくことを目的とするもの。



## ビジョン策定の目的

- ✓ 日高山脈襟裳十勝国立公園は、2024(令和6)年6月25日に日高山脈襟裳国立公園とその周辺地域を含めて新たな国立公園として指定
- ✓ 日高山脈襟裳十勝国立公園を未来に引き継ぎより良い姿にしていくためには、本公園が目指す将来像を明確にし、その実現に向けて関係者が連携して取組を進めていく必要
- ✓ 関係者が連携する場として「日高山脈襟裳十勝国立公園協議会」を設置し、本公園が目指すべきビジョンを策定
- ✓ 今後、本ビジョンの実現に向けて本公園と繋がるすべての関係者ができることを持ち寄り、連携して取組を推進することにより、世界水準の国立公園を目指す

## 対象区域

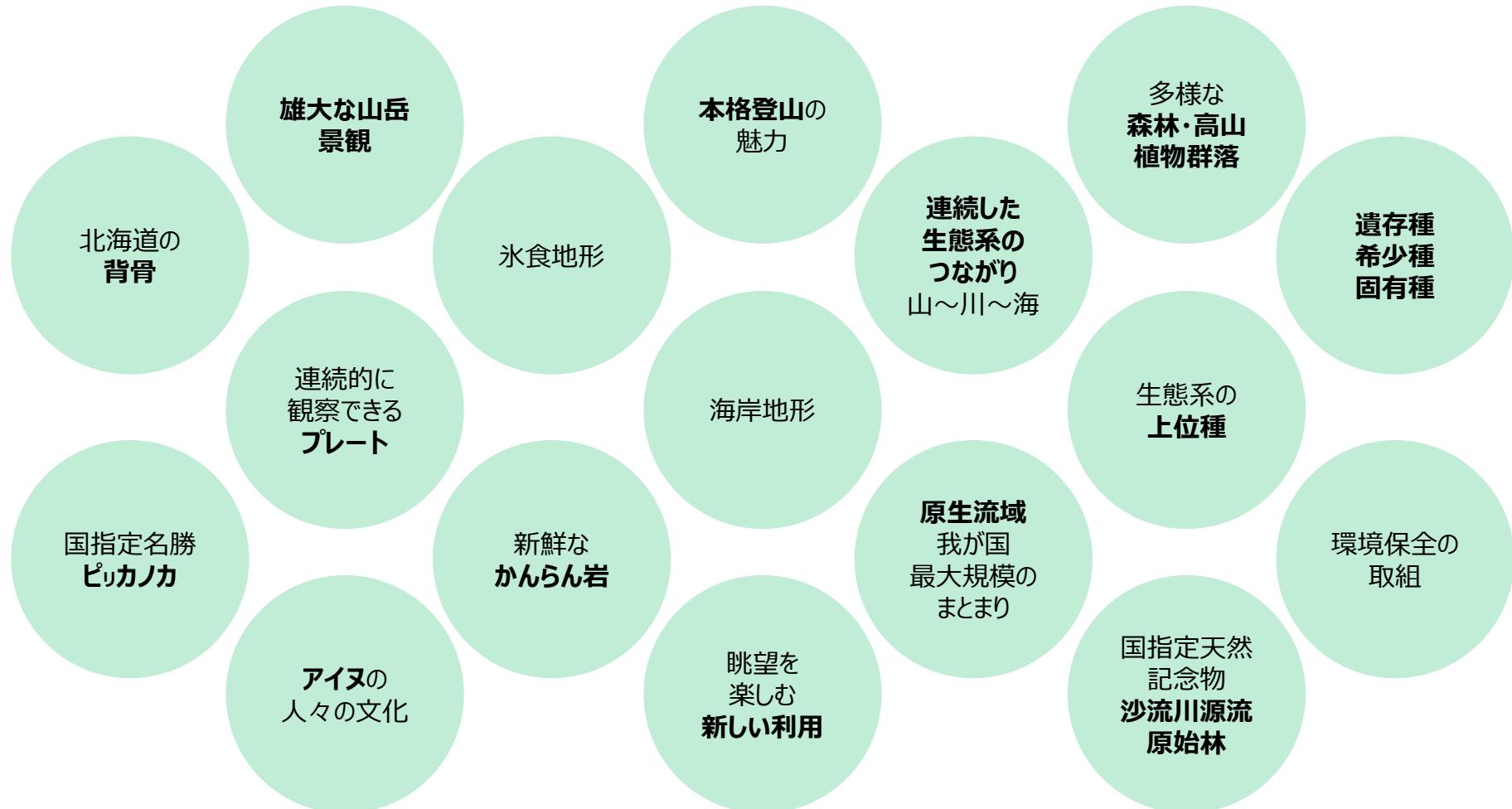
日高山脈襟裳十勝国立公園全域

## 日高山脈襟裳十勝国立公園の概要

- ✓ 南北およそ140kmに及ぶ日高山脈を中心とした、日本最大（陸域）の国立公園
- ✓ 地殻変動を受けて形成された非火山性連峰を基盤に、山地を核として育まれた深く原生的な自然環境が広がる風景を有する
- ✓ 地殻変動を受けて形成された山脈が内陸部から海まで延々と連なる雄大さと、国内最大の原生流域が存在していることが大きな特徴

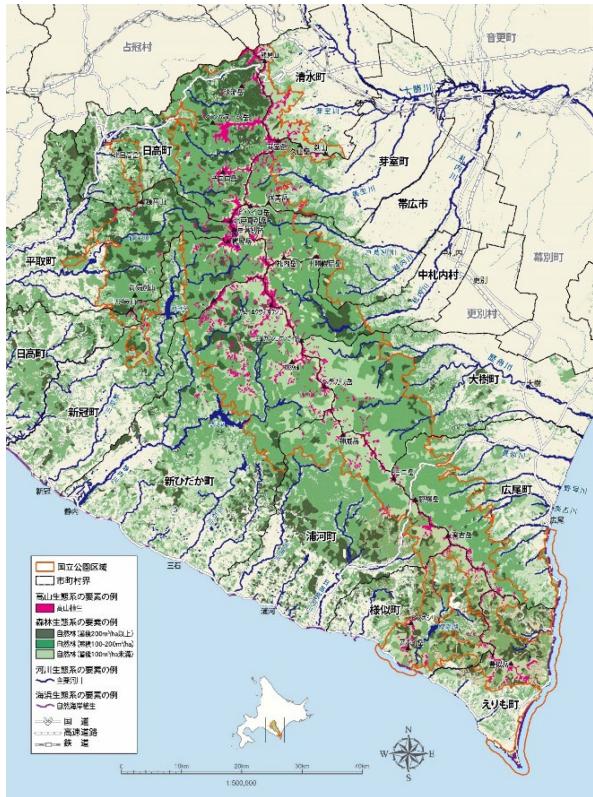
## 2. 價値・魅力

- 日高山脈襟裳十勝国立公園は、日高山脈の成り立ちによる地形・地質、山から海までの多様な環境と動植物、豊かな生物多様性、広大な原生流域、アイヌの人々の文化、雄大な山々が連なる景観としての親しみ、登山ほか眺望を楽しむ自然体験活動などの価値・魅力を有している。



### 3. 現状と課題（1）保護に関する事項

- 日高山脈襟裳十勝国立公園は、広大な原生流域や多様な生態系を擁し、生物多様性の豊かな地域となっており、この厳正な保護が求められる地域。
  - 地域ぐるみでの保全活動やモニタリング等を通して、自然環境の保全・保持を図る。



# 高山生態系

- ✓ 固有種や隔離分布種が多く生息生育
  - ✓ 盗掘被害やエゾシカの増加等脅かされる高山生態系の基盤、地域ぐるみの保全の取組

## 森林生態系

- ✓ 広大かつ多様な森林、野生鳥獣の重要な生息地
  - ✓ 森林生態系保護地域のモニタリング等を通じた、多様かつ原生的な天然林からなる森林生態系の保護・管理

## 河川生態系

- ✓ 生態系の上位種（大型猛禽類）を頂点とした食物連鎖の形成
  - ✓ 特色ある植物、ケショウヤナギの群生地、シマフクロウ
  - ✓ 生物の生息・生育・繁殖の場の保全・再生・創出

## 海浜や海洋の生態系

- ✓ 海岸の希少な動植物、地域社会と共に存を図る鳥獣管理
  - ✓ 恵みとなる魚介類や海藻類、漁労風景
  - ✓ 海洋環境の変化、残された自然海岸の保持

### 3. 現状と課題（2）利用に関する事項

- 日高山脈襟裳十勝国立公園では、本格登山の魅力のみならず、日高山脈の雄大な景観を周辺地域から楽しむような利用も考えられる。
- 他方、ルール・マナーの周知・啓発や、拠点間の連携向上・利用の分散を図ることも重要。



#### 登山利用等

- ✓ 原生的な自然や独特な山岳美に加え、沢登りや、やぶこぎなどを伴うことでしか味わえない本格登山を楽しめる一方、アクセスや宿泊に困難を伴う
- ✓ 怪我や遭難、ヒグマ等の野生動物との遭遇など様々な危険が伴う
- ✓ 地域ルールの設定や一層のマナー等の周知の取組とともに、登山者のルール・マナー遵守を求める



#### 眺望を生かした観光等

- ✓ アクセス容易な景勝地、国道沿い、さらに公園外の地域からも雄大な日高山脈が一望できる
- ✓ 既存の利用拠点の魅力向上、拠点エリア間（例えば、複数のビジターセンター間）の連携に取り組む
- ✓ 滞在型の周遊観光につながる広域連携や利用の分散を図る



### 3. 現状と課題（3）管理運営体制に関する事項

- 日高山脈襟裳十勝国立公園では、協議会やその他の場を活用しながら、公園内外を問わず広域的に連携・団結して取組を進めていく。
- 既存の利用施設・拠点・体験プログラムの充実や、人材育成・ソフト提供の充実を図る。

#### 関係機関・関係団体・関係者等との連携

- ✓ 関係者がそれぞれ理念を共有し、広域的に連携・団結
- ✓ お互いにできることを持ち寄り、連携することで課題解決に向けた大きな力に
- ✓ より多くの方々の力を集約する仕組み等も考えていく

#### 利用施設・拠点・体験プログラムの充実

- ✓ 多様な自然景観と、生活・文化・歴史が凝縮された物語を伝える博物展示施設や体験プログラム等を提供
- ✓ ツアーコースや自然体験プログラムの造成にあたっては、自然環境への負荷や文化的要素に配慮
- ✓ 各拠点の観光コンテンツを相互に紹介できる情報共有体制、担い手の育成



#### 自然・歴史・文化の学習のための人材・ソフトの充実

- ✓ 地域住民を含めた関係者一同で価値・魅力を共通認識に
- ✓ 地域の自然や歴史・文化などの普及啓発を継続・補強・発展



## 4. 基本理念

- 日高山脈襟裳十勝国立公園の貴重な自然環境を将来世代に継承し、後世までその恩恵を享受できるよう、3つの基本理念を掲げた。
  - ①生活の源泉である原生的な自然を厳正に保護
  - ②誰もがその価値と保全の重要性を認識した上で行動する適正な利用を推進
  - ③公園内外を問わず連携・協働を推進

自然環境の厳正な保護	適正な利用の推進	連携・協働の推進
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 最大の特徴である原生的な自然を重視</li> <li>✓ その自然が生活の源泉であり、地域の風土や文化を育んでいる</li> <li>✓ 後世までこれらの恩恵を享受し続けられるよう、関係法令に準拠しながら厳正に保護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本公園の自然環境や文化景観としての価値を損なうことのないよう、誰もが本公園の価値とその保全の重要性を認識した上で、山、森、川、海への畏敬の念をもって行動し、適正な利用を推進</li> <li>✓ 想定する自然体験の質に応じた利用環境の整備及び管理を推進、原生的な自然という特性を活かした質の高い体験を提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 様々な取組について、連携・協働を推進することにより、効率的で効果的な公園管理に繋がることから、魅力向上を図るため各地域間、各関係者間、各取組の連携を推進</li> <li>✓ 本公園内には一般利用者が車両等で気軽に来訪できる場所が限定されていることから、公園外の施設の活用などについて関係者との広域連携の取組を推進、価値や魅力の理解促進に努める</li> <li>✓ 利用ルールの設定、限定体験の提供や利用者負担、脱炭素化や地産地消などに取り組み、自然環境の保護と利用を持続可能な地域づくりにつなげる</li> </ul>

## 5. 国立公園としてのビジョン（るべき姿、目指すべき将来像）

- 基本理念に基づき、目指すべき将来像として3つのビジョンを示した。

- ① 原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園
- ② 利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園
- ③ みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園

### 原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園

- ✓ 本公園の根幹である原生的な自然や豊かな生物多様性が、その機能とともに良好な状態で厳正に保持されている
- ✓ 山から海までつながる独自の生態系や景観の連続性が良好な状態で維持され、自然の恵みを提供している
- ✓ アイヌの世界観をはじめとした自然環境と結びついた文化景観としての価値が維持されている

### 利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園

- ✓ 核心部の上級者向け登山から、山麓部での広域周遊まで、利用者の特性（目的・趣向）やレベル（技術・情報）に応じた幅広い楽しみ方があり、何度も訪れたくなる
- ✓ 環境に回復困難な負荷をかけないように、適正なゾーニングや利用上のルール・マナーが示され、利用者や事業者にその情報が行き届き守られている
- ✓ 利用者は、唯一無二の感動・体験をすることでき、その感動・体験を通じて、本公園を含む地域の自然、生き物、文化、暮らし等を学ぶことができる

### みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園

- ✓ 多様な立場の関係する行政機関や団体が参画する協働型の管理運営体制等を活用しつつ、それぞれが役割を認識して主体的に取り組み、様々なアイデアを取り入れながら、相互に連携・協働した取組を推進している
- ✓ 原生的な自然や生物多様性を損なうことがないよう厳正に保護しながら、地域活性化が持続的に実現できるよう、保護と利用の好循環の仕組みや連携・協働した体制が構築されている
- ✓ 国立公園外を含む本公園に関係するあらゆる人々が、本公園の価値・魅力を共有して、知恵を出し合って連携して取り組んでいる

## 【参考】検討体制、経緯

### 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会

- 設置目的：

日高山脈襟裳十勝国立公園の保全と利用の目標を示した国立公園ビジョンを策定するとともに、その実現を目指して、構成員が連携した取組を推進することにより、本公園の優れた自然環境の保全と適正な利用を推進

- 会長：北海道地方環境事務所長

- 構成員：

行政機関（森林管理署、北海道開発局、北海道運輸局、北海道、関係13市村）、登山関係団体、自然保護団体、観光関係団体、有識者

R3.2～R4.2 日高山脈襟裳地域の国立公園指定に関する関係自治体連絡会：骨子案を作成

R6.10 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第1回幹事会：骨子案の意見交換

R6.12 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第2回幹事会：素案の意見交換

R7.2 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第3回幹事会：素案修正版の意見交換

R7.5～6 案のパブリック・コメント

R7.6 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第1回幹事会：修正案の議論

R7.8 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会総会：ビジョンの決定（予定）

実施項目	令和6年度				令和7年度												令和8年度												令和9年度以降			
	8	…	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
●会議開催																																
協議会総会	8/27				書面				8/5																				年1回程度開催（第1四半期頃）			
幹事会			2/19					6/23																				年3~4回程度開催				
登山道部会						6/23																						適宜開催				
その他部会																												必要に応じて設置、開催				
●議題																																
ビジョン	【検討経緯】 R3.2～R4.2 関係自治体連絡会(3回)：骨子案の作成 R6.10～R7.2 幹事会(3回)：素案の作成、意見交換 R7.5～6 案のパブリック・コメント R7.6 幹事会(1回)：修正案の議論 R7.8 総会：ビジョンの決定(予定)												所定の手続きを経て、公園計画の基本方針に反映させる。																			
管理運営方針													幹事会において、管理運営方針（案）を作成し、協議会で承認いただく。 所定の手続きを経て、公園計画の基本方針に反映させる。																			
行動計画・ 地域ルール													幹事会において、必要に応じて行動計画（案）や地域ルール（案）を作成し、協議会で承認いただく。所定の手続きを経て、国立公園管理運営計画に反映させる。																			
自然体験活動計画													環境省が作成する自然体験活動計画（案）について、協議会に報告する。 所定の手続きを経て、公園計画に反映させる。																			
登山道部会	準備会合において、部会規約及び普及啓発資料（夏山登山の5つの心得）について、各構成員から周知。				総会で決定された普及啓発資料（夏山シーズンの状況について各構成員が把握した情報を共有。部会を開催し、対応が必要な事項（登山グレードの設定等）について協議。																											
その他部会	必要に応じて、部会を設置し、個別課題について議論。																															

## (用語の定義)

ビジョン	国立公園の風景型式及び公園の利用の現況並びにそれらの特性を踏まえ、公園の風致景観を保護するとともに、その特性に対応した適正な利用が行われるよう、中長期的な視点に立ち、公園の望ましい姿（公園の保護すべき資源、利用の方向性等）、公園が提供すべきサービス（役割、機能）、公園の価値や保全・利用の目標をわかりやすく示したもの。
管理運営方針	ビジョンの実現に向け公園を管理運営していくに当たっての方向性を示したものであり、「保護に関する事項」と「利用に関する事項」に分けて記載する。 「保護に関する事項」として、当該公園の主要な保護対象及びそれらの保護管理の方針、特別地域（特別保護地区並びに第1種、第2種及び第3種特別地域）、海域公園地区及び利用調整地区等の指定方針等について記載する。 また、「利用に関する事項」として、主たる利用形態、公園区域内外にわたる利用動線の現況と今後の方針、主要な利用拠点又は利用施設の配置及び整備の方針、特定の地域における利用規制に関する方針等を記載する。
行動計画	ビジョン、管理運営方針等に基づき、自然環境の保全、利用施設の整備及び取組内容及び役割分担について整理したもの。
地域ルール	国立公園の全部又は一部の地域において、自然環境や利用状況を踏まえて定める地域特有の自然環境保全及び適正利用の推進のための自主的なルールや遵守事項。
自然体験活動計画	公園の風致景観及び自然環境、利用状況等の公園ごとの特性を踏まえ、質の高い自然体験活動の促進に関して、当該公園において自然体験活動を促進する上で踏まえるべき自然資源の特性、当該公園における質の高い自然体験活動の促進に関する基本的な方針等を定めるもの。

## 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約

### (名称)

第1条 本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園協議会と称する。

### (目的)

第2条 本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園の保全と利用の目標を示した国立公園ビジョンを策定するとともに、その実現を目指して、構成員が連携した取組を推進することにより、本公園の優れた自然環境の保全と適正な利用を推進することを目的として設置する。

### (協議事項)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事項を協議する

- (1) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンに関する事項
- (2) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンの実現に向けた管理運営方針及び行動計画に関する事項
- (3) 前号の行動計画に基づく取組の実施に関する事項
- (4) その他、前条の目的の達成のために必要な事項

### (構成)

第4条 本会は、別添1に掲げる機関、団体等により構成する。

### (会長)

第5条 会長は、北海道地方環境事務所長が務める。

### (総会)

第6条 総会は、年1回開催するほか、会長の招集により必要に応じて開催する。

- 2 総会の議長は、会長が務める。
- 3 総会は、第3条の事項について協議する。

### (幹事会)

第7条 本会に、幹事会を設置する。

- 2 幹事会は、必要に応じて事務局が招集する。
- 3 幹事会の構成員は、別添2による。
- 4 幹事会は、総会の議事に関する予備的協議、その他連絡調整を行う。
- 5 幹事会は、必要に応じ別添3のアドバイザーを招聘し意見を聴くことができる。

(部会)

第8条 本会に、部会を設けることができる。

- 2 部会の設置及び運営に必要な事項は、総会において決定する。
- 3 部会は、必要に応じ別添3のアドバイザーを招聘し意見を聞くことができる。

(事務局)

第9条 本会の事務局を、北海道地方環境事務所国立公園課に置く。

- 2 事務局は、会の庶務を行う。

附則 この規約は、令和6年8月27日から施行する。

## 別添1

機関・団体等	構成員
学識経験者	中村 太士（北海道大学名誉教授） 愛甲 哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署長 日高南部森林管理署長 十勝西部森林管理署長 北海道開発局開発監理部開発連携推進課長 北海道運輸局観光部長 北海道地方環境事務所長
北海道	環境生活部長 日高振興局長 十勝総合振興局長
市町村	帶広市長 日高町長 平取町長 新冠町長 浦河町長 様似町長 えりも町長 新ひだか町長 清水町長 芽室町長 中札内村長 大樹町長 広尾町長
登山関係団体	十勝山岳連盟会長 日高山岳連盟会長
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ会長 十勝自然保護協会 共同代表
観光関係団体	十勝観光連盟会長 日高管内観光連盟会長

別添2

機関・団体等	幹事会構成員
有識者	中村 太士（北海道大学名誉教授） 愛甲 哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署長 日高南部森林管理署総括事務管理官 十勝西部森林管理署総括事務管理官 北海道開発局開発監理部開発連携推進課開発企画官 帯広運輸支局 首席運輸企画専門官(企画輸送・監査担当) 室蘭運輸支局 首席運輸企画専門官 (総務企画担当) 北海道地方環境事務所国立公園課長
北海道	環境生活部自然環境局自然環境課自然公園担当課長 日高振興局環境生活課長 十勝総合振興局環境生活課長
市町村	帯広市都市環境部環境室環境課長 日高町日高総合支所地域経済課長 平取町観光商工課長 新冠町企画課長 浦河町商工観光課長 様似町商工観光課長 えりも町産業振興課長 新ひだか町総務部まちづくり推進課長 清水町農林課長 芽室町環境土木課長 中札内村産業課長 大樹町住民課長 広尾町水産商工観光課長
登山関係団体	十勝山岳連盟会長 日高山岳連盟会長
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ会長 十勝自然保護協会事務局長
観光関係団体	十勝観光連盟事務局長 日高管内観光連盟事務局長

### 別添3

(アドバイザー)

学識経験者

アイヌ文化関係団体

登山関係団体又は山岳ガイド事業者

遭難対策関係団体

自然保護関係団体

観光関係団体又は観光事業者

交通事業者

経済関係団体

金融関係団体

その他、協議会が認める者

## 令和6年度の各構成員の取組報告

(1) 原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園			
構成員名	取組	概要	再掲
日高北部森林管理署 北海道地方環境事務所	シマフクロウの保護増殖のための巣箱設置	国有林野にシマフクロウの保護増殖のための巣箱を設置(10月)。	
日高北部森林管理署	「幌尻原生林」(日高山脈森林生態系保護地域の一部)の解説板の製作	国立公園第2種特別地域内の同林分について、解説板を製作。	
北海道地方環境事務所	自然公園法ほか関連法令の施行事務	自然公園法令等関係法令の許認可事務を通して、自然環境の保全が図られるよう対応。	
様似町	エンルム岬 DE ゴミ拾い	海岸の清掃活動を実施(10/20 様似町内)。	
中札内村	国立公園化記念冊子「山高水長」発行	日高山脈の特徴や自然、動植物、安全登山の啓発等をまとめた国立公園化記念冊子を発行(2月)。	

(2)利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園			
構成員名	取組	概要	再掲
日高北部森林管理署	「幌尻原生林」(日高山脈森林生態系保護地域の一部)の解説板の製作	国立公園第2種特別地域内の同林分について、解説板を製作。	○
日高北部森林管理署	「第51回ひだか樹魂まつり」への出展	国立公園指定記念として開催された同行事に出展し、スウェーデン・トーチづくり、木質粘土工作、森林に関する普及啓発等を実施(7月)。	
日高北部森林管理署	国有林専用林道のゲートの開錠	登山口へのアクセス道となっているチロロ林道及びパンケヌシ林道について、夏山期間はゲートを開放。	
日高南部森林管理署	えりも岬小学校遠足	えりも岬小学校を対象に植栽箇所視察や木製製品作成を伴う環境教育学習を実施(5/17 えりも町内)。	
日高南部森林管理署	えりもワクワク森林づくり体験	えりも町等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局長と	

構成員名	取組	概要	再掲
	事業植樹祭	共に来賓として参加し、植樹指導等を実施(5/27 えりも町内)。	
日高南部森林管理署	国有林専用林道ゲート開放	登山口へのアクセス道となっている新冠林道及び元浦川林道について、夏山期間ゲートの開放を行った(6/1, 14)	
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(中学生植樹)	中学生を対象に植樹を通した環境教育学習を実施(6/26 えりも町内)。	
日高南部森林管理署	えりも町庶野小学校校外学習	えりも町庶野小学生を対象に環境教育学習として、森林観察や木製製品作成を実施(7/9 えりも町内)。	
日高南部森林管理署	JICA 研修	JICA 研修生を対象にえりも国有林事業等の説明、研修を実施(8/5, 9/30 えりも町内)。	
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(高校生枝落とし)	高校生を対象に植樹を通した環境教育学習を実施(9/11 えりも町内)。	
日高南部森林管理署	えりも岬の緑を守る会・イキイキ森林づくり事業	えりも岬の緑を守る会等が主催するイベントへ北海道森林管理局計画保全部長と共に来賓として参加し、枝落とし指導等を実施(11/6 えりも町内)。	
北海道地方環境事務所	「子どもパークレンジャー2025」国立公園レンジャーと冬の森を調査しよう！	小学生とその保護者を対象に、スノーシューを用いた現地調査体験を実施(2/23 日高町内)。	
北海道地方環境事務所 大樹町	小学生向け講演	小学生に日高山脈襟裳十勝国立公園の特徴や自然の保護と利用について紹介(9/6 大樹町内)。	
北海道地方環境事務所	国立公園めぐりデジタルスタンプラリー	全国の国立公園を対象としたデジタルスタンプラリーに日高山脈襟裳十勝国立公園コースを追加(8/30～)。	
北海道地方環境事務所	標識の設置(日勝峠)	国立公園の境界線付近(国道274号線沿い日高町内及び清水町内)に入口標識を設置。	
北海道地方環境事務所	音声配信による魅力発信	国立公園オフィシャルパートナーと連携し、日高山脈襟裳十勝国立公園の魅力を紹介するPodcastsを配信。	
北海道地方環境事務所	ツーリズム EXPO ジャパン2024	日高山脈襟裳十勝国立公園の指定及びその魅力について、旅行業界関係者、一般消費者に向けPR(9/26～29 東京都)。	

構成員名	取組	概要	再掲
北海道地方環境事務所	環境省アクティブ・レンジャー写真展 2024～北の自然の舞台裏～	写真展において、日高山脈襟裳十勝国立公園の自然を被写体とした写真を展示し、国立公園をPR(7/2～7/22 襟裳岬「風の館」、10/12～10/31 芽室駅前プラザ)。	
十勝総合振興局	国立公園の指定日を祝したセレモニー	国立公園の指定を周知するため、指定日当日に関係6市町村長及び十勝町村会が集い、指定を祝したコメントと、横断幕のお披露目を実施(6/25 帯広市役所)。	
日高振興局 十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園指定記念行事	指定を記念し、価値、魅力を発信するとともに、保護と利用の両立が図られるようシンポジウムを開催(10月 浦河町総合文化会館)	
日高振興局 十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園指定記念行事	認知度向上や公園適正利用を目的とし、NHK 帯広放送局との共催で講演会とパネル展示を実施(11/2 帯広畜産大学)。	
日高振興局	高校生と連携した観光ツアーの造成等	静内高校と連携したツアーの造成及び実施。	
日高振興局	アポイ岳ピンネシリマップの更新	R3 作成の同マップを国立公園化に対応した内容に更新。	
十勝総合振興局	ツーリズム EXPO ジャパン 2024	日高山脈の魅力等を旅行業界、一般消費者に向け実施(9/26～29 東京都)。	
日高振興局 十勝総合振興局	日高×十勝食の宴	日高山脈の周辺観光等についてプロモーションを実施(10/30 ホテルライフオート札幌)。	
日高振興局 十勝総合振興局	北海道観光情報交換会	国立公園の魅力を首都圏のメディアや旅行業者へPRするとともに YouTube で情報発信。	
十勝総合振興局	SNS を活用した情報発信	日高山脈襟裳十勝国立公園に係るイベント等を「X」で情報発信。	
十勝総合振興局	SNS による魅力発信	Instagram を活用した十勝から見た日高山脈の魅力 PR。	
日高振興局	巡回パネル展	日高振興局、関係 7 町で巡回パネル展を実施。	
十勝総合振興局	局内パネル展	日高山脈の認知度向上を目的とし、写真パネルの展示及びオリジナル付箋の配布を実施。	
十勝総合振興局	帯広空港パネル展示及びチラシの配布	十勝を訪問する人に国立公園の魅力を知らうため、空港内において、風景写真パネル等の展示とチラシ等の配布による啓発	

構成員名	取組	概要	再掲
		活動を実施。	
十勝総合振興局	啓発物品の作成	日高山脈襟裳十勝国立公園の PR を目的とし、横断幕、公園及び周辺地域の魅力を紹介するパネル、国立公園の概要紹介チラシ及びマナー啓発チラシ、風景写真ポストカードを制作。	
十勝総合振興局	「JIMOTO 新聞」への広告掲出	十勝にまたがる阿寒摩周、大雪山国立公園の普及啓発も併せ、地方紙とコミュニティ FM が協同で発行している「JIMOTO 新聞」に、利用マナーの広告を掲出。	
十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園指定記念特設サイトの公開	東洋株式会社、十勝・日高山脈観光連携協議会と連携し、十勝で楽しむ日高山脈の魅力の発信を目的として、日高山脈襟裳十勝国立公園指定記念特設ウェブサイトを制作し公開。	
日高振興局	アポイ岳野営場園地改修に向けた委託設計	園地キャンプ場内のテントサイトのオートサイト化、標識や炊事棟の改修等(9月～翌年1月 様似町)。	
日高振興局	日勝峠園地改修に向けた委託設計	園地内標識、園路の再整備等(9月～翌年1月 日高町)。	
日高振興局	ガイド不足を補うデジタルコンテンツの製作	ガイド不足を補うデジタルコンテンツの製作。	
十勝総合振興局	十勝・アドベンチャートラベル推進事業	日高山脈を含むATコンテンツの磨き上げや人材育成を目的とした研修等を実施(11月～翌年3月 十勝管内)。	
十勝総合振興局	施設改修	公園区域に位置する札内川園地内の公衆トイレの改修(12月～翌年2月 中札内村)。	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	「無二」改訂版増刷(7000部)、特設ページ制作 広域ツアー動画の制作	魅力発信雑誌「無二」の改訂版増刷、日高山脈特設ページ制作(十勝観光連盟HP内)、「日高山脈を眺めるツアーPV」動画公開。	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	「日高山脈遊覧フライトツアーワーク」の実施、広域モニターツアーワークの実施	遊覧フライトツアーワークの助成、ナショナルパーク日高山脈を6つの切り口で楽しむツアー造成。	
日高山脈国立公園化推進事業	指定記念祝賀会共催・	指定記念祝賀会の共催及び北海道主催の指定記念イベントへの	

構成員名	取組	概要	再掲
実行委員会(事務局:帶広市)	指定記念イベント協力	協力。	
日高山脈国立公園化推進事業 実行委員会(事務局:帶広市)	指定記念ミニのぼり作成	国立公園指定を記念したミニのぼりを作成し、市町村施設へ設置。	
日高山脈国立公園化推進事業 実行委員会(事務局:帶広市)	パンフレット「日高山脈襟裳十勝国立公園を知ろう！」作成	「日高山脈襟裳十勝国立公園」についてわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布。	
帶広市	国立公園指定記念懸垂幕設置	指定日に合わせ指定記念懸垂幕を設置。 (市役所・とかちプラザ)	
帶広市	国立公園PRステッカー作成・配布	日高山脈の動植物をデザインしたステッカーの作成。	
日高町、清水町	国立公園指定記念「芽室岳登山会」	国立公園を記念して、日高町、清水町、芽室町にまたがる芽室岳登山会を開催(9/7)。	
日高町	国立公園指定記念ゆるキャラ	町立日高高校の国立公園に係る課題探究活動から国立公園指定記念ゆるキャラ「日彗(ひすい)」と「ハイマ」の2案が考案され、町民アンケートで「日彗(ひすい)」に決定。「日彗(ひすい)」は龍を基に背中は日高山脈、全身が日高ヒスイ色、目はヒダカイワザクラをモチーフにしたもの。	
日高町	国立公園日高町協議会	国立公園のインフラ整備や自然体験事業の方向性を官民一体で話し合うことを目的として町や観光事業者を構成員とする協議会を設立(2/28)。	
日高町	国立公園指定記念看板	役場庁舎等町内5施設に指定記念看板を設置。	
日高町	国立公園指定祝賀フラッグ	国道街路灯に祝賀フラッグを期間限定で設置。	
日高町	「国立公園のまち 日高町」看板	国道237号線占冠村境及び国道274号線札幌側に「国立公園のまち」を示す看板を設置。	
日高町	道の駅「樹海ロード日高」国立公園看板	道の駅「樹海ロード日高」に国立公園を示す看板を設置。	
日高町	各種冠事業	国立公園指定を普及啓発するため、ひだか樹魂まつりをはじめとする各種行事を「国立公園指定記念」として開催。	

構成員名	取組	概要	再掲
日高町	町広報「ひだか」掲載	国立公園の概要を普及啓発するための記事を町広報誌に掲載。	
日高町	国立公園指定記念パッケージの北海道日高乳業「ヨーグルッペ」及び日本酒	国立公園を記念したパッケージのヨーグルト飲料や日本酒を製造し、イベント等で配布。	
日高町	国立公園PR映像等上映	国立公園PR映像等を上映するため、デジタルサイネージを道の駅等町内8施設に設置。	
日高町	ホッカイドウ競馬「国立公園記念特別」	国立公園を記念したレースを門別競馬場で開催。	
平取町	懸垂幕、横断幕の掲示	平取町役場庁舎、振内支所、とよぬか山荘に懸垂幕、ふれあいセンターびらとりに横断幕の設置(6/25)。	
平取町	国立公園指定記念チラシ・ポスターの配布	平取町町内各所へのポスター配布(6/27)及びまちだよりへのチラシ折込(6/28)。	
平取町	国立公園記念キーホルダーの配布	幌尻岳登頂者へ幌尻山荘でキーホルダーの配布(7/1)。	
平取町	国立公園記念クリアファイルの配布	町内の小中高生への配布(7/8)、その他イベント時に配布。	
平取町	看板の設置	平取町役場前庭国道側、振内町民センター横に看板を設置。	
浦河町	楽古リバーウォークワークショップ	楽古山荘や自然を体験してもらうワークショップ開催(8/4)。	
浦河町	日高山脈襟裳十勝国立公園指定記念 日高山脈写真展	日高山脈に関連する写真、記事等を展示(11/9~11/17)。	
浦河町	楽古岳に登ろう	楽古岳山頂までのコースを浦河山岳会と一緒に登る会を実施(町民申込参加)(11/10)。	
浦河町	スノーシューウォーク～冬の森を歩こう	冬の AERU のフットパスエリアを散策し、動物や冬山などを観察する体験会を実施(2/9)。	
様似町	アポイ岳ジオパーク DE スタンプラリー	アポイ岳ジオパーク内の各場所に隠されたスタンプを探し、全て集めた方に景品をプレゼント(8/10~8/12 様似町内)。	

構成員名	取組	概要	再掲
様似町	アポイカレッジ「世界に誇る…アポイ岳のかんらん岩と日高山脈」新井田清信先生の講演会	アポイ岳のかんらん岩と日高山脈の岩石の特徴について紹介(9/7 様似町内)。	
様似町	エンルム岬 DE ゴミ拾い	海岸の清掃活動を実施(10/20 様似町内)。	○
様似町	HIDAKA TRAIL DAYS	自然環境の保全と活用を多くの人に知ってもらうことを目的としたアウトドアイベント。ワークショップや体験会を多数開催(10/26～10/27 様似町内)。	
えりも町	国立公園化の周知	国立公園化を記念した下記掲示物を設置。 ・垂れ幕(庁舎前) ・横断幕(灯台公園前) ・のぼり(町内業者)	
新ひだか町	国立公園誕生タペストリーの設置	町内の国道沿いに国立公園の誕生を祝うタペストリーを設置。	
新ひだか町	ペラリ山町民登山大会の実施	国立公園誕生を記念して、登山大会を実施。26名が参加(10/20)。講師として新ひだか自然保護官事務所の草留氏を招き、国立公園の魅力などの講話を実施。 主催:静内山岳会 協賛:新ひだか町 後援・協力:新ひだか町体育協会、日高南部森林管理署	
新ひだか町	国立公園誕生記念Tシャツの作成	静内山岳会協力のもと、国立公園誕生記念Tシャツを作成。町民登山大会の参加者などに配付。	
新ひだか町	山並み名称看板の改修(シベチャリ橋)	2か所に設置していた山並み名称看板の表記の色あせや薄れによる劣化を修復するための改修を実施。	
新ひだか町	国立公園誕生記念看板及び懸垂幕の設置	役場静内庁舎前及び道の駅みついしに記念看板、役場三石庁舎に記念懸垂幕を設置。	
中札内村	日高山脈襟裳十勝国立公園指定記念写真絵画展	北大山岳部の写真や環境省提供のパネルなどを展示するほか、北大山岳部創世期メンバーの山岳画家・坂本直行氏のスケッチブッ	

構成員名	取組	概要	再掲
		ク等を展示(8月)。	
中札内村	山の日講演会	北大山岳部 OB に日高山脈の魅力を語っていただくとともに、全山縦走を通じて体感した日高山脈の恐ろしさ、登山の魅力等を伝える講演会を実施(8/9)。	
中札内村	国立公園化記念講演会・村民祝賀会	村産食材の食事や縦走映像等を楽しみ、ふるさとの山の国立公園指定を祝ったほか、講演会では北大山岳部 OB(北大山の会)2名が登壇し、日高山脈の魅力や登山の歴史を講話(8/25)。	
中札内村	北大山岳部との小学生キャンプ事業	村内在住の小学生と北大山岳部の学生による札内川園地でのキャンプ。ウチダザリガニの駆除体験や環境省及び北大山岳部からの日高山脈に係る講演等を実施(9/7~8)。	
中札内村	道の駅アイスキャンドルイベント	道の駅に約 1,000 個のアイスキャンドルを日高山脈に見立てて並べ、日高山脈の国立公園化を PR(1/25~26)。	
中札内村	国立公園化記念冊子「山高水長」発行	日高山脈の特徴や自然、動植物、安全登山の啓発等をまとめた国立公園化記念冊子を発行(2月)。	
大樹町	小学生向け講演	小学生に日高山脈襟裳十勝国立公園の特徴や自然の保護と利用について紹介(9/6 大樹小学校)。	
十勝観光連盟	観光プロモーションでの PR 活動	北海道観光情報会(大阪、名古屋会場)、ツーリズムエキスポ(東京会場)に参加し、メディア各社に日高山脈襟裳十勝国立公園の特徴について紹介。	
十勝観光連盟	日高山脈写真展の開催(十勝毎日新聞社主催)	十勝毎日新聞社が日高山脈襟裳十勝国立公園の指定を記念して帯広駅市民ギャラリーで地元写真家の作品を中心に写真展を開催。	
十勝観光連盟	広域連携事業への支援	十勝・日高山脈観光連携協議会(十勝管内6自治体)が主催する副業ガイド人材発掘・育成イベント事業を支援。	
日高管内観光連盟	日高観光ネットワークミーティング 2024	観光関係事業者等を対象に国立公園の観光活用や観光における地域内外連携の重要性等についてミーティングを日高観光ネットワークミーティング実行委員会が主催のもと共催にて実施。	

(3)みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園

構成員名	取組	概要	再掲
日高南部森林管理署	えりもワクワク森林づくり体験 事業植樹祭	えりも町等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局長と共に来賓として参加し、植樹指導等を実施(5/27 えりも町内)。	○
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育 (中学生植樹)	中学生を対象に植樹を通した環境教育学習を実施(6/26 えりも町内)。	○
日高南部森林管理署	えりも町庶野小学校校外学習	えりも町庶野小学生を対象に環境教育学習として、森林観察や木製製品作成を実施(7/9 えりも町内)。	○
日高南部森林管理署	JICA 研修	JICA 研修生を対象にえりも国有林事業等の説明、研修を実施(8/5、9/30 えりも町内)。	○
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育 (高校生枝落とし)	高校生を対象に植樹を通した環境教育学習を実施(9/11 えりも町内)。	○
日高南部森林管理署	えりも岬の緑を守る会・イキイキ森林づくり事業	えりも岬の緑を守る会等が主催するイベントへ北海道森林管理局計画保全部長と共に来賓として参加し、枝落とし指導等を実施(11/6 えりも町内)。	○
北海道地方環境事務所 北海道、13市町村	日高山脈襟裳十勝国立公園 指定記念式典	日高山脈襟裳十勝国立公園指定を記念した式典を開催し指定を周知(7/20)。	
北海道地方環境事務所 大樹町	小学生向け講演	小学生に日高山脈襟裳十勝国立公園の特徴や自然の保護と利用について紹介(9/6 大樹町内)。	○
北海道地方環境事務所 帯広市	市民向け講演	市民向けに日高山脈襟裳十勝国立公園の特徴や保護と利用について紹介(11/9 帯広市内)。	
十勝総合振興局	国立公園の指定日を祝したセレモニー	国立公園の指定を周知するため、指定日当日に関係6市町村長及び十勝町村会が集い、指定を祝したコメントと、横断幕のお披露目を実施(6/25 帯広市役所)。	○
日高振興局 十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園 指定記念行事	指定を記念し、価値、魅力を発信するとともに、保護と利用の両立が図られるようシンポジウムを開催(10月 浦河町総合文化会館)。	○
日高振興局 十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園 指定記念行事	認知度向上や公園適正利用を目的とし、NHK 帯広放送局との共催で講演会とパネル展示を実施(11/2 帯広畜産大学)。	○

構成員名	取組	概要	再掲
日高振興局	高校生と連携した飲食メニューの開発	静内農業高校と連携して開発、メニュー化。	
日高振興局	高校生と連携した観光ツアーの造成等	静内高校と連携したツアーの造成及び実施。	○
日高振興局	巡回パネル展	日高振興局、関係 7 町で巡回パネル展を実施。	○
十勝総合振興局	局内パネル展	日高山脈の認知度向上を目的とし、写真パネルの展示及びオリジナル付箋の配布を実施。	○
十勝総合振興局	「JIMOTO 新聞」への広告掲出	十勝にまたがる阿寒摩周、大雪山国立公園の普及啓発も併せ、地方紙とコミュニティFMが協同で発行している「JIMOTO 新聞」に、利用マナーの広告を掲出。	○
十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園指定記念特設サイトの公開	東洋株式会社、十勝・日高山脈観光連携協議会と連携し、十勝で楽しむ日高山脈の魅力の発信を目的として、日高山脈襟裳十勝国立公園指定記念特設ウェブサイトを制作し公開。	○
日高振興局	ゼロカーボンパーク登録に向けた調整	各町への働きかけ、管内全町の登録準備(5月)。	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	「無二」改訂版増刷(7000部)、特設ページ制作 広域ツアー動画の制作	魅力発信雑誌「無二」の改訂版増刷、日高山脈特設ページ制作(十勝観光連盟HP内)、「日高山脈を眺めるツアーPV」動画公開。	○
日高山脈国立公園化推進事業 実行委員会(事務局:帯広市)	指定記念ミニのぼり作成	国立公園指定を記念したミニのぼりを作成し、市町村施設へ設置。	○
日高山脈国立公園化推進事業 実行委員会(事務局:帯広市)	パンフレット「日高山脈襟裳十勝国立公園を知ろう！」作成	「日高山脈襟裳十勝国立公園」についてわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布。	○
日高町、清水町	国立公園指定記念「芽室岳登山会」	国立公園を記念して、日高町、清水町、芽室町にまたがる芽室岳登山会を開催(9/7)。	○
日高町	国立公園指定記念ゆるキャラ	町立日高高校の国立公園に係る課題探究活動から国立公園指定記念ゆるキャラ「日彗(ひすい)」と「ハイマ」の2案が考案され、町民アンケートで「日彗(ひすい)」に決定。「日彗(ひすい)」は竜を基に背中は日高山脈、全身が日高ヒスイ色、目はヒダカイワザクラをモ	○

構成員名	取組	概要	再掲
		チーフにしたもの。	
日高町	国立公園日高町協議会	国立公園のインフラ整備や自然体験事業の方向性を官民一体で話し合うことを目的として町や観光事業者を構成員とする協議会を設立(2/28)。	○
日高町	国立公園指定記念祝賀会	国立公園を記念する祝賀会を開催し、地域産品を食しながら伝統芸能鑑賞、国立公園学習を実施(7/13)。	○
日高町	国立公園指定記念パッケージの北海道日高乳業「ヨーグルツペ」及び日本酒	国立公園を記念したパッケージのヨーグルト飲料や日本酒を製造し、イベント等で配布。	○
日高町	国立公園PR映像等上映	国立公園PR映像等を上映するため、デジタルサイネージを道の駅等町内 8 施設に設置。	○
様似町	HIDAKA TRAIL DAYS	自然環境の保全と活用を多くの人に知ってもらうことを目的としたアウトドアイベント。ワークショップや体験会を多数開催(10/26～27 様似町内)。	○
新ひだか町	ペラリ山町民登山大会の実施	国立公園誕生を記念して、登山大会を実施。26名が参加(10/20)。講師として新ひだか自然保護官事務所の草留氏を招き、国立公園の魅力などの講話を実施。 主催:静内山岳会 協賛:新ひだか町 後援・協力:新ひだか町体育協会、日高南部森林管理署	○
中札内村	山の日講演会	北大山岳部OBに日高山脈の魅力を語っていただくとともに、全山縦走を通じて体感した日高山脈の恐ろしさ、登山の魅力等を伝える講演会を実施(8/9)。	○
中札内村	国立公園化記念講演会・村民祝賀会	村産食材の食事や縦走映像等を楽しみ、ふるさとの山の国立公園指定を祝ったほか、講演会では北大山岳部 OB(北大山の会)2 名が登壇し、日高山脈の魅力や登山の歴史を講話(8/25)。	○
中札内村	北大山岳部との小学生キャンプ事業	村内在住の小学生と北大山岳部の学生による札内川園地でのキャンプ。ウチダザリガニの駆除体験や環境省及び北大山岳部からの	○

構成員名	取組	概要	再掲
		日高山脈に係る講演等を実施(9/7~8)。	
中札内村	国立公園化記念冊子「山高水長」発行	日高山脈の特徴や自然、動植物、安全登山の啓発等をまとめた国立公園化記念冊子を発行(2月)。	○
大樹町	小学生向け講演	小学生に日高山脈襟裳十勝国立公園の特徴や自然の保護と利用について紹介(9/6 大樹小学校)。	○
十勝観光連盟	日高山脈写真展の開催(十勝毎日新聞社主催)	十勝毎日新聞社が日高山脈襟裳十勝国立公園の指定を記念して帯広駅市民ギャラリーで地元写真家の作品を中心に写真展を開催。	○
十勝観光連盟	広域連携事業への支援	十勝・日高山脈観光連携協議会(十勝管内6自治体)が主催する副業ガイド人材発掘・育成イベント事業を支援。	○
十勝観光連盟	指定記念新聞広告の掲載	関係自治体、関係機関とともに、北海道新聞(全道版)、十勝毎日新聞に日高山脈襟裳十勝国立公園の指定を祝う広告を掲載。	
日高管内観光連盟	日高観光ネットワークミーティング 2024	観光関係事業者等を対象に国立公園の観光活用や観光における地域内外連携の重要性等についてミーティングを日高観光ネットワークミーティング実行委員会が主催のもと共催にて実施。	○

## 令和7年度の各構成員の取組報告・予定

(1) 原生的な自然とその恵みを、後世まで守り传えていく国立公園			
構成員名	取組	概要	再掲
日高北部森林管理署 北海道地方環境事務所	シマフクロウの保護増殖のための巣箱設置	国有林野にシマフクロウの保護増殖のための巣箱を設置予定(10-11月頃)。	
日高北部森林管理署	森林保全巡視及び使用貸付地の確認	額平ルート・幌尻岳周辺について巡視予定(7-8月頃、雨天延期又は中止)。	
日高北部森林管理署	鶴川・沙流川河岸浸食等調査	鶴川沙流川河川事務所が実施する同調査のために飛行した北海道開発局の災害対策へり「ほっかい」に同乗し、国立公園区域を含む国有林野を上空から確認(6月)。	
日高北部森林管理署	「幌尻原生林」(日高山脈森林生態系保護地域の一部)の解説板の設置	国立公園第2種特別地域内の同林分について、解説板を設置(5月)。	
北海道運輸局	日高山脈襟裳十勝国立公園における「来訪者が環境保全に貢献する仕組み」の構築に向けた検証事業	日高山脈襟裳十勝国立公園の各エリアの自然と人を繋ぐ「ロングトレイル」の造成を検討するとともに、誘客の効果を環境保全に波及させる手法の検証を実施予定。	
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道地方環境事務所国立公園課)	夏山登山の5つの心得	日高山脈で登山をする際に最低限守っていただきたいものとして「5つの心得」を提示(5月~)。	
北海道地方環境事務所	現地調査とあわせた公園利用上の普及啓発	職員による現地調査・巡視時に、公園利用状況の確認、必要に応じて普及啓発などを実施。	
帯広市	十勝幌尻岳登山口看板設置	十勝幌尻岳登山口に「夏山登山の5つの心得」の内容を表示した看板を設置(7/1)。	
日高町	携帯トイレ回収BOX設置	日高山脈チロロ岳及び北戸蔦別岳登山口に携帯トイレ回収BOXを設置。	
平取町	二風谷コタン DAY におけるPR	日高山脈襟裳十勝国立公園の指定1周年を記念し、地域イベント「二風谷コタン DAY」のなかで、沙流川歴史館において国立公園	

構成員名	取組	概要	再掲
		PR 動画を放映し PR を実施(7/19)。	
中札内村	安全登山及び環境保全の啓発活動	札内川ヒュッテ付近(カムイエクウチカウシ山及びコイカクシユ札内岳登山口)で、登山者に対して携帯トイレの携行・配布を呼び掛け日高山脈の自然環境に配慮してもらう(8/11「山の日」に合わせて実施)。	

(2)利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園			
構成員名	取組	概要	再掲
日高北部森林管理署	「幌尻原生林」(日高山脈森林生態系保護地域の一部)の解説板の設置	国立公園第2種特別地域内の同林分について、解説板を設置(5月)。	○
日高北部森林管理署	国有林専用林道のゲートの開錠	登山口へのアクセス道となっているチロ口林道及びパンケヌシ林道について、夏山期間はゲートを開錠(一般道ではないことの注意喚起のため門扉は閉鎖)。	
日高南部森林管理署	えりもワクワク森林づくり体験事業植樹祭	えりも町等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局長と共に来賓として参加し、植樹指導等を実施(6/18 えりも町内)。	
日高南部森林管理署	国有林専用林道ゲート開放	登山口へのアクセス道となっている新冠林道について、夏山期間ゲートを開錠(6/21)。	
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(中学生植樹)	中学生を対象に植樹を通した環境教育学習を実施(6/25 えりも町内)。	
日高南部森林管理署	えりも町庶野小学校校外学習	えりも町庶野の小学生を対象に、環境教育学習として、森林観察や木製製品作成を実施予定(7月予定 えりも町内)。	
日高南部森林管理署	JICA 研修	JICA 研修生を対象にえりも国有林事業等の説明、研修を実施予定(8・9月予定 えりも町内)。	
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(高校生枝落とし)	高校生を対象に植樹を通した環境教育学習を実施予定(9月予定 えりも町内)。	
日高南部森林管理署	えりも岬の緑を守る会・イキイ	えりも岬の緑を守る会等が主催するイベントへ北海道森林管理局	

構成員名	取組	概要	再掲
	キ森林づくり事業	計画保全部長と共に来賓として参加し、枝落とし指導等を実施(11月予定 えりも町内)。	
日高北部森林管理署 日高山脈登山会議事務局(事務局:日高町)	日高自然の森自然観察教育林の施設等現地確認	国立公園普通地域内のレクリエーションの森について、レク森協議会構成団体と日高北部森林管理署で現地の樹名板、解説板、歩道等を確認(5月)。	
北海道運輸局	日高山脈襟裳十勝国立公園における「来訪者が環境保全に貢献する仕組み」の構築に向けた検証事業	日高山脈襟裳十勝国立公園の各エリアの自然と人を繋ぐ「ロングトレイル」の造成を検討するとともに、誘客の効果を環境保全に波及させる手法の検証を実施予定。	○
北海道地方環境事務所	北海道国立公園アドベンチャーパスポート	北海道にある7つの国立公園の概要等をまとめたパスポート形式のパンフレットを製作(4月~)。	
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道地方環境事務所国立公園課)	夏山登山の5つの心得	日高山脈で登山をする際に最低限守っていただきたいものとして「5つの心得」を提示(5月~)。	○
北海道地方環境事務所	国立公園 VR 映像機器の配置	日高山脈襟裳十勝国立公園等を紹介する VR 映像機器を自治体協力の下で配置。	
北海道地方環境事務所	現地調査とあわせた公園利用上の普及啓発	職員による現地調査・巡視時に、公園利用状況の確認、必要に応じて普及啓発などを実施。	○
北海道地方環境事務所 日高山脈襟裳十勝国立公園・十勝環境保全委員会	子どもパークレンジャー2025	小学生を対象に札内川園地を会場として、自然体験活動を実施予定(8月予定)。	
北海道地方環境事務所	町民向け情報発信	町民向け生涯学習教室「しみず学園」において、日高山脈の魅力を紹介(6/17 清水町内)。	
北海道地方環境事務所	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト「日高山脈とともに生きる」	国立公園指定1周年を記念したフォトコンテストを開催。 作品応募期間:7/18(金)から9/5(金)まで	
北海道地方環境事務所	環境省アクティブ・レンジャー写真展 2025 ~北の自然の	写真展において、日高山脈襟裳十勝国立公園の自然を被写体とした写真を展示し、国立公園を PR(6/7~24 清水町文化センタ	

構成員名	取組	概要	再掲
	舞台裏～	一、7/8～28 襟裳岬「風の館」、8/2～21 新ひだか町公民館)。	
日高振興局 十勝総合振興局	レンジャーが語る！日高山脈襟裳十勝国立公園の魅力トークセッション	2名の自然保護官が日高山脈襟裳十勝国立公園の特徴や魅力について語るイベントを実施(6/25 道庁本庁舎)。	
日高振興局 十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念シンポジウム	探検家・作家の角幡唯介氏による基調講演のほか、札内川園地指定管理者や自然保護官などによるパネルディスカッションを実施(7/12 浦河町総合文化会館)。	
日高振興局	体験型環境教育	小学生を対象に、コレクションカード等を活用した環境教育に係る学習意欲の向上、野外活動への参加促進を図る体験型環境教育を実施(7月～)。	
日高振興局	巡回パネル展	各町、振興局において国立公園に係るパネルを展示。	
十勝総合振興局	セミナー	十勝管内3国立公園に関するセミナーを開催(11月予定)。	
十勝総合振興局	インスタレーション作品展示	中札内高等養護学校生が作成した日高山脈の雄大な自然を題材にした作品を展示(4月 JR 帯広駅)。	
北海道環境生活部自然環境課 十勝総合振興局	ツーリズム EXPO ジャパン2025	日高山脈の魅力等を旅行業界、一般消費者に向け実施(9/25～28 愛知県)。	
十勝総合振興局	SNSを活用した情報発信	日高山脈襟裳十勝国立公園に係るイベント等を「X」で情報発信。	
十勝総合振興局	SNSによる魅力発信	Instagramを活用した十勝から見た日高山脈の魅力 PR。	
十勝総合振興局	日高山脈めぐるとかちカードの配布	日高山脈周辺の見所を紹介するカードを道の駅や観光施設で配布(5月)。	
十勝総合振興局	国立公園指定1周年写真展	地域の暮らしとともににある日高山脈を紹介する写真展を開催(6月～11月)。	
北海道環境生活部自然環境課 日高振興局 十勝総合振興局	北海道フェアへの出展	イオンレイクタウンの「イオン北海道フェア」において、日高山脈襟裳十勝国立公園、関係市町村のPRを実施(7/1～6 埼玉県)。	
十勝総合振興局	巡回パネル展	3国立公園の巡回パネル展を実施予定(8月～予定)。	
日高振興局	マップ、パンフレットの作成	「日高山脈マップ」、国立公園の周知・理解促進に向けたPRパンフ	

構成員名	取組	概要	再掲
十勝総合振興局		レットを作成予定。	
十勝総合振興局	啓発品の配布	「とかちフェア」、「北海道宇宙サミット」で啓発品を配布予定(7月、10月予定)。	
日高振興局	各種イベント・事業での国立公園化に係る展示	地域おこし協力隊説明会(5/25～26) ひだかフェア in どさんこプラザ札幌店(5/28～6/3) 北海道移住相談会(6/15) 北海道ハイウェイ Show Area 2025 in 噴火湾パノラマパーク(八雲)(7/12～13) おいでや！いなか暮らしフェア(7/20) ひだかフェア in 札幌競馬場(8/30～31) 札幌市内ホテルでのグルメイベント(グルメフェア) 10月実施予定) 馬産地日高活性化 PR 事業(浦和競馬場) (10/28～29) オールひだか うまうま marche(11/19～20) コーチャンフォーマルシェコーナーでのひだかフェア(12～1月頃予定)	
十勝総合振興局	看板の設置	道道静内中札内線沿いの国立公園区域の入口付近に看板を設置(4月)。	
日高振興局	施設改修	アポイ岳登山口野営場のテントサイトのオートサイト化、標識・炊事場の改修等を実施予定。	
日高振興局	施設改修	日勝峠園地内の標識・園路の再整備等を実施予定。	
日高振興局	施設改修	襟裳岬園地整備に向けた委託設計を実施予定。	
北海道環境生活部自然環境課 日高振興局 十勝総合振興局	啓発チラシの配布	国立公園利用マナー啓発を実施予定。	
日高振興局	ガイド不足を補うデジタルコンテンツの造成	デジタルコンテンツを作成。日本語版については公開中。多言語化版については、秋以降公開予定。	
日高山脈襟裳十勝国立公園・十	日高山脈写真パネル展	環境省及び十勝毎日新聞社の製作した日高山脈の写真パネルを	

構成員名	取組	概要	再掲
勝環境保全委員会(事務局:帯広市)		借用し、十勝管内の6市町村で順番にパネル展を開催。	
日高山脈襟裳十勝国立公園・十勝環境保全委員会(事務局:帯広市)	・子ども向けプログラム (環境省子どもパークレンジャー)	北海道地方環境事務所と共に、小学生を対象に札内川園地を会場に、自然体験活動を実施予定(8月予定)。	
日高山脈襟裳十勝国立公園・十勝環境保全委員会(事務局:帯広市)	・PRパンフレット作成	「日高山脈襟裳十勝国立公園」についてわかりやすく説明したパンフレットの作成を予定。	
帯広市	十勝幌尻岳登山口看板設置	十勝幌尻岳登山口に「夏山登山の5つの心得」の内容を表示した看板を設置(7/1)。	○
日高町	携帯トイレ回収BOX設置	日高山脈チロロ岳及び北戸蔦別岳登山口に携帯トイレ回収BOXを設置。	○
日高町	町広報「ひだか」掲載	国立公園指定1周年を普及啓発するための記事を町広報誌に掲載。	
日高町	国立公園指定記念ゆるキャラ	日高町の日高高校生が考案したゆるキャラ「日彗」の缶バッヂを作り、ひだか樹魂まつり来場者へ配布。	
日高町	ホッカイドウ競馬「国立公園のまち日高町特別」	国立公園のまちを記念したレースを門別競馬場で実施。	
日高町 (清水町等と共に)	国立公園指定1周年記念「第2回芽室岳登山会」	国立公園指定1周年を記念して、日高町、清水町、芽室町にまたがる芽室岳で登山会を実施予定(9/20)。	
日高町	国立公園「北日高岳」登山会	国立公園内で登山道のある最も低い山「北日高岳」の登山会を実施予定(10月)。	
日高町	国立公園日高町協議会	観光庁「多言語解説文作成事業」採択に伴う支援、環境省「国立公園利用拠点計画作成支援事業」採択に伴う計画策定、自然体験活動促進計画策定に向けた検討などを官民一体となって実施。	
平取町	二風谷コタン DAY におけるPR	日高山脈襟裳十勝国立公園の指定1周年を記念し、地域イベント「二風谷コタン DAY」のなかで、沙流川歴史館において国立公園PR動画を放映しPRを実施(7/19)。	○

構成員名	取組	概要	再掲
平取町	石丸謙二郎氏トークショー&幌尻岳記念登山	日高山脈襟裳十勝国立公園の指定1周年を記念して著名人である、石丸謙二郎氏を招いたトークショー(聞き手:野村良太氏)と石丸謙二郎氏、野村良太氏ほか平取町山岳会同行による、1泊2日の幌尻岳記念登山を開催予定(8/10~12)。	
浦河町	オロマップキャンプ場ワークショップ	町内キャンプ場でのワークショップ開催(8/10予定)。	
浦河町	楽古岳登山ワークショップ	町民向けの登山(楽古岳)ワークショップを実施予定(夏~秋予定)。	
浦河町	案内看板設置	楽古岳及び神威岳登山道への案内看板を設置予定。	
浦河町	カムイ・楽古山荘管理運営業務	楽古山荘の草刈り、建屋の簡易な維持補修等の環境整備を業務委託(実施中)(前地域おこし協力隊)。	
浦河町	オロマップキャンプ場管理運営業務	公園周辺の環境整備として、オロマップキャンプ場の草刈り、薪管理等を実施(前地域おこし協力隊)。	
様似町	アポイ岳ジオパーク DE スタンプラリー	アポイ岳の各場所に隠されたスタンプを探し、全て集めた方に景品をプレゼント(8/9~13 様似町内)。	
様似町	HIDAKA TRAIL DAYS	自然環境の保全と活用を多くの人に知ってもらうことを目的としたアウトドアイベント。ワークショップや体験会を多数開催予定(10/18~19 様似町内)。	
えりも町	国立公園特化型パンフ・ポスター制作・看板修繕事業	町民及び道内に向け広く周知することを目的に、国立公園に焦点をあてたポスター及びパンフレットを制作。町の両端にある既存の看板を更新。	
えりも町	キャッシュレス決済キャンペーン事業	観光客増加が見込まれることから、町内事業者のキャッシュレス導入の促進等を目的にポイント還元キャンペーンを実施予定。	
えりも町	灯台公園木製ベンチ取替事業	景観の改善及び町民や観光客への満足度向上を目的に、灯台公園にある老朽化したベンチ 4 箇所の修繕を実施。	
えりも町	花壇整備事業	国立公園化に伴う景観の改善として、灯台公園前の花壇の整備を実施。	
新ひだか町	ペテガリ岳環境整備ボランティア	新ひだか町、日高中部消防組合、環境省、静内山岳会及び一般募	

構成員名	取組	概要	再掲
	イア活動の実施	集したボランティアスタッフで入山し、ペテガリ岳登山道の点検・整備(笹刈など)、ペテカリ山荘の清掃、薪割り、修繕のほか、遭難救助に備えた無線の感度交信テストなどの活動を実施予定。	
新ひだか町	町民登山大会への協力	毎年開催される町民登山大会に協力団体として参加。 5/18にピセナイ山町民登山大会を実施、28名が参加。	
新ひだか町	新たなPR看板の設置	みついし道の駅内に、インバウンドに対応した英文解説案内を表記した山並み名称看板を設置予定。	
新ひだか町	北大山岳部とのアウトドア・キャンプ事業	中札内村及び北大山岳部と連携し、小学生を対象としたアウトドアキャンプ事業(散策や星空観察、講話など)を実施予定。	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局芽室町)	日高山脈PRパンフレット制作、モンベルフレンドエリア登録	十勝総合振興局・日高振興局と連携し、日高山脈PRパンフレットを制作、モンベルフレンドエリアの登録の継続 PR。	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局芽室町)	広域ツアー造成に向けた取り組み	広域でのモニターツアー実施(アジア圏対象) 地域ストーリーの磨き上げ ガイド人材発掘イベント 地域連携 DMO との連携によるツアー商品化	
中札内村	日高山脈専門員の配置	中部日高山脈登山口に位置する日高山脈山岳センターへ登山知識・登山経験のある日高山脈専門員を2名配置し、中部日高山脈の山岳情報の発信及び提供を実施(4月～)。	
中札内村	国立公園化1周年記念「村民登山会(アポイ岳)」及び「山の日音楽祭」	日高山脈の自然の体験や日高山脈の希少な植物にも関心を持つてもらうため、アポイ岳登山を行う(6月)。 日高山脈の魅力発信や北海道警察とともに安全登山の啓発イベント(野外音楽祭)写真展、VR 体験等も開催する(8月)。	
中札内村	安全登山及び環境保全の啓発活動	札内川ヒュッテ付近(カムイエクウチカウシ山及びコイカクシュ札内岳登山口)で、登山者に対して携帯トイレの携行・配布を呼び掛け日高山脈の自然環境に配慮してもらう(8/11「山の日」に合わせて実施)。	○
中札内村	アウトドア・キャンプ事業	中札内村及び新ひだか町の小学生を対象に自然体験活動等を通	○

構成員名	取組	概要	再掲
		じて日高山脈や自然、環境への関心を持ってもらう(9月 札内川園地)。	
中札内村	各種 PR 事業	羽田空港でのプロモーション事業やサイクルイベント等を実施(7月～9月頃)。	
大樹町	もいわ山森林公園展望デッキの新設	雄大な山並み、街並み等が眺望でき、デッキの基本素材は再生木材を使用し、周囲の自然との調和を図る展望デッキを整備(11月末完成)。	
十勝観光連盟	国立公園 VR を活用したプロモーション	ツーリズムエキスポ(9月、名古屋)、北海道観光情報会(10月、大阪・東京)において、VR を活用した PR を実施。	
日高管内観光連盟	HIDAKA ドライブマップのリニューアル	日高管内のドライブマップをリニューアルし、国立公園について追記。	

### (3)みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園

構成員名	取組	概要	再掲
日高北部森林管理署、 日高町 (日高山脈登山会議事務局)	日高自然の森自然観察教育 林の施設等現地確認	国立公園普通地域内のレクリエーションの森について、レク森協議会構成団体と日高北部森林管理署で現地の樹名板、解説板、歩道等を確認(5月)。	○
日高北部森林管理署	鵡川・沙流川河岸浸食等調査	鵡川沙流川河川事務所が実施する同調査のために飛行した北海道開発局の災害対策へり「ほっかい」に同乗し、国立公園区域を含む国有林野を上空から確認(6月)。	○
日高南部森林管理署	えりもワクワク森林づくり体験 事業植樹祭	えりも町等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局長と共に来賓として参加し、植樹指導等を実施(6/18、えりも町内)。	○
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育 (中学生植樹)	中学生を対象に植樹を通した環境教育学習を実施(6/25 えりも町内)。	○
日高南部森林管理署	えりも町庶野小学校校外学習	えりも町庶野の小学生を対象に、環境教育学習として、森林観察や木製製品作成を実施予定(7月予定 えりも町内)。	○
日高南部森林管理署	JICA 研修	JICA 研修生を対象にえりも国有林事業等の説明、研修を実施予定(8・9月予定 えりも町内)。	○

構成員名	取組	概要	再掲
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育 (高校生枝落とし)	高校生を対象に植樹を通した環境教育学習を実施予定(9月予定 えりも町内)。	○
日高南部森林管理署	えりも岬の緑を守る会・イキイキ森林づくり事業	えりも岬の緑を守る会等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局計画保全部長と共に来賓として参加し、枝落とし指導等を実施 (11月予定 えりも町内)。	○
北海道地方環境事務所 (共催:日高山脈襟裳十勝国立公園・十勝環境保全委員会)	子どもパークレンジャー2025	小学生を対象に札内川園地を会場として、自然体験活動を実施予定(8月予定)。	○
北海道地方環境事務所	町民向け情報発信	町民向け生涯学習教室「しみず学園」において、日高山脈の魅力を紹介(6/17 清水町内)。	○
日高振興局 十勝総合振興局	レンジャーが語る!日高山脈襟裳十勝国立公園の魅力トークセッション	2名の自然保護官が日高山脈襟裳十勝国立公園の特徴や魅力について語るイベントを実施(6/25 道庁本庁舎)。	○
日高振興局 十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念シンポジウム	探検家・作家の角幡唯介氏による基調講演のほか、札内川園地指定管理者や自然保護官などによるパネルディスカッションを実施(7/12 浦河町総合文化会館)。	○
十勝総合振興局	セミナー	十勝管内3国立公園に関するセミナーを開催(11月予定)。	○
十勝総合振興局	巡回パネル展	3国立公園の巡回パネル展を実施予定(8月~予定)。	○
北海道環境生活部自然環境課 日高振興局 十勝総合振興局	啓発チラシの配布	国立公園利用マナー啓発を実施予定。	○
日高振興局	商工団体との意見交換会	8/19開催予定。	
十勝総合振興局	環境教育ワークショップ	環境教育ワークショップを実施予定(秋頃予定)。	
日高振興局	ゼロカーボンパーク登録に向けた調整	日高管内7町のゼロカーボンパーク登録に向けた調整(説明会を6/6に実施)。	
日高山脈襟裳十勝国立公園・十	子ども向けプログラム(環境)	北海道地方環境事務所と共に、小学生を対象に札内川園地を	○

構成員名	取組	概要	再掲
勝環境保全委員会 (事務局:帶広市)	省子どもパークレンジャー)	会場に、自然体験活動を実施予定(8月予定)。	
帶広市	十勝幌尻岳登山口看板設置	十勝幌尻岳登山口に「夏山登山の5つの心得」の内容を表示した看板を設置(7/1)。	○
日高町 清水町 ほか	国立公園指定1周年記念「第2回芽室岳登山会」	国立公園指定1周年を記念して、日高町、清水町、芽室町にまたがる芽室岳で登山会を実施予定(9/20)。	○
日高町	国立公園日高町協議会	観光庁「多言語解説文作成事業」採択に伴う支援、環境省「国立公園利用拠点計画作成支援事業」採択に伴う計画策定、自然体験活動促進計画策定に向けた検討などを官民一体となって実施。	○
浦河町	カムイ・楽古山荘管理運営業務	楽古山荘の草刈り、建屋の簡易な維持補修等の環境整備を業務委託(実施中)(前地域おこし協力隊)。	○
浦河町	オロマップキャンプ場管理運営業務	公園周辺の環境整備として、オロマップキャンプ場の草刈り、薪管理等を実施(前地域おこし協力隊)。	○
新ひだか町	ペテガリ岳環境整備ボランティア活動の実施	新ひだか町、日高中部消防組合、環境省、静内山岳会及び一般募集したボランティアスタッフで入山し、ペテガリ岳登山道の点検・整備(笹刈など)、ペテカリ山荘の清掃、薪割り、修繕のほか、遭難救助に備えた無線の感度交信テストなどの活動を実施予定。	○
新ひだか町	町民登山大会への協力	毎年開催される町民登山大会に協力団体として参加。 5/18にピセナイ山町民登山大会を実施、28名が参加。	○
新ひだか町 中札内村	北大山岳部とのアウトドア・キャンプ事業	北大山岳部と連携し、中札内村及び新ひだか町の小学生を対象としたアウトドア・キャンプ事業(散策や星空観察、講話など)を実施予定。自然体験活動等を通じて日高山脈や自然、環境への関心を持ってもらう(9月、札内川園地)。	○
中札内村	国立公園化1周年記念「村民登山会(アポイ岳)」及び「山の日音楽祭」	日高山脈の自然の体験や日高山脈の希少な植物にも関心を持ってもらうため、アポイ岳登山を行う(6月)。 日高山脈の魅力発信や北海道警察とともに安全登山の啓発イベント(野外音楽祭)写真展、VR体験等も開催する(8月)。	○

#### 報告資料4 各構成員からの情報提供資料

- (1) 登山道に通じる国有林林道の通行状況  
(日高北部・南部・十勝西部森林管理署)
- (2) 登山口簡易トイレ等設置・運用状況及び芽室岳登山会について(日高町)
- (3) 石丸謙二郎トークショー&記念幌尻岳登山について(平取町)



国民の森林・国有林

# 登山道に通じる国有林林道の通行状況

令和7年7月22日  
林野庁北海道森林管理局  
日高北部森林管理署  
日高南部森林管理署  
十勝西部森林管理署

山岳名	標高m	森林管理署	林道名	市町名	林道の管理者	令和7年度の林道開放期間	関連山岳名	備考
幌尻岳	2,052	日高北部	糠平、幌尻	平取町	平取町/日高北部署	(バス運行期間) 7月1日～9月30日 ※ゲートは非開放	戸萬別岳	問合せ先 平取町役場観光商工課 電話：01457-3-7703
			チロ口	日高町	日高北部署	6月14日～9月30日	ヌビラ岳・北戸萬別岳	
		日高南部	新冠	新冠町	新冠町/日高南部署	6月21日～9月30日	イドンナップ岳	
チロ口岳	1,880	日高北部	パンケヌシ	日高町	日高北部署	6月28日～8月31日		
神威岳	1,600	日高南部	元浦川	浦河町	日高南部署	通行止め (道道被害により通行止)	ペテガリ岳	
芽室岳	1,754	十勝西部	上羽蒂、オマベツ	清水町	十勝西部署	常時開放		
久山岳	1,411	十勝西部	旭山	清水町	十勝西部署	林道被災により閉鎖		
伏美岳	1,792	十勝西部	トムラウシ沢	芽室町	十勝西部署	林道被災により閉鎖		復旧工事による落石の危険があるため、徒步での通行も不可
戸萬別岳	1,959	十勝西部	トムラウシ沢	芽室町	十勝西部署	林道被災により閉鎖		
エサマントゥタバツ岳	1,902	十勝西部	戸萬別川、エサマツ戸萬別	帯広市	十勝西部署	常時開放（ヒュッテから5.7km地点で通行止め）		
十勝幌尻岳	1,846	十勝西部	戸萬別川、オビリヌツ	帯広市	十勝西部署	常時開放		
ペテガリ岳	1,736	十勝西部	歴舟川支流	大樹町	十勝西部署	常時開放（ただしゲートから1.5km先林道崩壊のため通行止め）		
楽古岳	1,471	十勝西部	札楽古	広尾町	十勝西部署	林道被災により閉鎖		

日高山脈襟裳十勝国立公園

「北戸蔦別岳」・「チロロ岳」登山口簡易トイレ・携帯トイレ回収BOX 設置・運用状況

(設置者：日高山脈登山会議／今年度運用開始：令和7年5月29日)

「北戸蔦別岳」登山口 チロロ林道二岐沢出合 北海道電力管理道路ゲート付近



(使用状況) 令和7年7月14日確認

※運用開始からの回収数 18個



「チロロ岳」登山口 パンケヌシ林道曲り沢出合 北海道電力管理道路ゲート付近

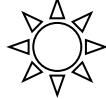


(使用状況) 令和7年7月14日確認

※運用開始からの回収数 1個



# 【日高山脈襟裳十勝国立公園】指定1周年記念 第2回【芽室岳】登山会 募集のお知らせ



「日高山脈襟裳十勝国立公園」指定1周年を記念し、日高町・清水町等に跨る芽室岳(標高1745m)登山会を実施、秋の日高山脈を楽しめます！

日 時 令和7年9月20日（土）

※日高町からの参加者は日高町が送迎します。

送迎希望者は申込時に送迎希望と明記

①道の駅「樹海ロード日高」午前6時30分発

②千栄会館 午前6時40分発

【出発地点までは各自でお越しください】



内 容 芽室岳登山 登山口標高600m 山頂標高1754m

参加定員 30名（日高町・清水町在住者優先）

※応募者多数の場合は抽選となります。

参加条件 健脚の方（歩行時間、往復5時間）小中学生は保護者同伴。

※雨天時は中止もあります。判断は、当日朝行います。

※山頂手前の標高1690mの分岐点に時間内に到着できない場合は  
引き返してもらう場合もあります。

参加費用 1,000円（小中学生も同額。保険（登山のみ有効）、引率費）

服 装 装備は一般的な夏山登山に準じます（雨具、防寒着等を含む）

※昼食や非常食等は各自でご用意ください。

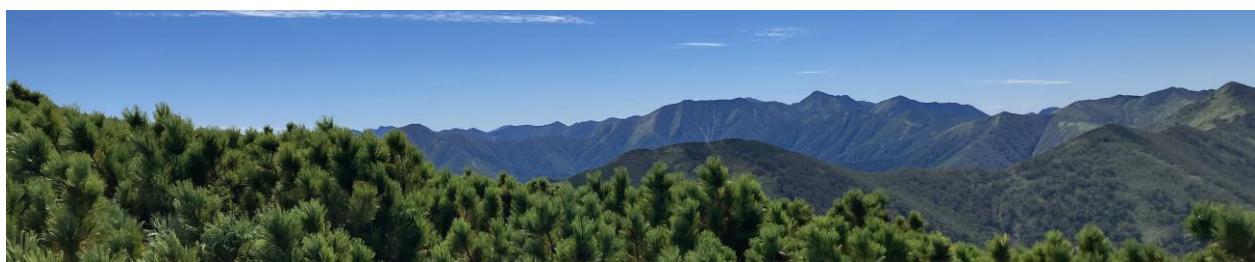
申込方法 令和7年8月26日（火）までに、「芽室岳登山会参加申込・住所・  
氏名・電話番号・生年月日・緊急連絡先（氏名と続柄・電話番号）・  
日高町の送迎希望有無」を明記の上、FAX(01457-6-3981)またはメール  
(chiikikeizaika@town.hidaka.hokkaido.jp)で申込みください。

参加可否 令和7年9月10日（水）までに電話等でご連絡差し上げます。

お問い合わせは：

日高町日高総合支所地域振興課施設管理グループ（国立公園担当）

Tel:01457-6-2084 Fax:01457-6-3981 メール chiikikeizaika@town.hidaka.hokkaido.jp



（芽室岳山頂から日高町の山々 1967m峰・北戸鳶別岳等 昨年度の登山会にて）

主 催 国立公園記念指定1周年記念「第2回芽室岳登山会」実行委員会

## 日高山脈襟裳十勝国立公園指定一周年記念

幌尻登山への想い  
登山の魅力



野村良太氏  
トークショーゲスト  
「北海道分水嶺大縦断」

2025.8.10

[開演] 19:00 [開場] 18:30

日

入場無料

平取町中央公民館 大ホール

〒055-0107 沙流郡平取町本町88-1

幌尻岳記念登山8月11日～12日  
(雨天時別メニューに変更有)

5名様限定 7月27日まで受付

受付後厳正なる抽選で決定

申し込み QRコード

詳しいお問い合わせは下記まで (ゲストへのご質問もこちらから受付)



主催 平取町 TEL\_ 01457-3-7703

平取町



後援 環境省北海道地方環境事務所 日高北部森林管理署

日高振興局 平取町教育委員会

協力 一般社団法人平取町山岳会 NPO法人沙流川愛クラブ

一般社団法人びらとり観光協会



## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）に関する意見募集 (パブリック・コメント) の結果

### 1 意見募集の概要

「日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）」について、次のとおり御意見を募集しました。

#### ○意見期間

令和 7 年 5 月 21 日（水）～令和 7 年 6 月 15 日（日）

#### ○意見提出方法

電子メール又は郵送による提出

### 2 意見募集の結果

整理した意見の総数 31 件

### 3 御意見の概要及びそれに対する考え方について

別紙のとおり

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

意見番号	内容	御意見の概要	件数	事務局対応
1	1. はじめに (1) ビジョン策定の目的	5行目文頭直後「長年にわたり」を、4行目「本公園の誕生は、」の直後に移し、6行目「長年に渡る」を削る修正をご検討願います。原文が重複的な表現に感じるため、提案の修正であれば元の文意と変わらないものと思料します。		御意見のとおり修正します。
2	図1: 日高山脈襟裳十勝国立公園公園区域図	凡例にある「特別保護地域」は「特別保護地区」の間違いではないでしょうか。ご確認ください。		御意見のとおり修正します。
3	1. はじめに (3) 日高山脈襟裳十勝国立公園の概要	日高山脈の原生的な自然は、森林だけでなく森林限界を超えた高山の領域にも認められ、それとともに、本公園の自然是森林だけではなく、高山に多くの特徴が認められます。それ故、パブコメ版の「原生的な自然林生態系」は、日高山脈の自然を正しく捉えない、間違った表現になります。したがって、ここは「山頂・山稜に成立する高山植生と山腹から山麓を広く被う自然林から構成される、原生的な自然生態系」と修正すべきです。自然林の広がりは日高山脈の一つの大きな特徴ですが、ここでは「林」を外すべきです。		御意見を踏まえ、「自然環境」に修正します。
4	2. 価値・魅力	日高山脈の成り立ちとして、プレートの衝突が記述されていますが、日高山脈全域の地質の特徴がほとんど記されていません、その上で「世界的に見ても珍しい」と記されていますので、何が珍しいのか理解できません。「その成り立ちは、(中略)新鮮なかんらん岩が見られます。」の部分を以下のように少し具体的に記述してしてはいかがでしょうか。  「その成り立ちは、北海道付近において2つのプレートの衝突が進行し、東側のプレートの地殻がめくれ上がるよう突き上げられたことに由来し、本来は地下深くにある地質の断面が地表に連続的に現れています。つまり、山脈を西から東へ横断すると、西側の地殻最下部から東側の地殻上部までの岩石を現在の地表で連続的に観察できる世界的にも珍しい場所です。また、ユネスコ世界ジオパーク		御意見を踏まえ、「つまり」以下の文について、以下のとおり修正します。  「つまり、山脈を西から東へ横断すると、プレートの地殻最下部から地殻上部までの岩石を現在の地表で連続的に観察できる世界的に見ても珍しい場所です。」

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

		一ヶにも認定されているアポイ岳(標高 810m)周辺には、地殻よりも深いマントルの様子を知ができる新鮮なかんらん岩が見られます。		
5	2. 価値・魅力	表記ゆれをかな表現に訂正。他箇所は「とともに」とあるが、この箇所だけ「と共に」と漢字表記となっています。		御意見のとおり修正します。
6	2. 価値・魅力	「広大な山域一帯には自然林が広がり、国指定天然記念物「沙流川源流原始林」や我が国最大規模のまとまりをもつ原生流域などがあります。」は、不正確な表現ですので、以下のような修正を望みます。「広大な山域は、国指定天然記念物「沙流川源流原始林」をはじめとした自然林(天然林)が広がり、我が国最大規模のまとまりをもつ原生流域として特記されます。」		御意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 「広大な山域には、国指定天然記念物「沙流川源流原始林」をはじめとした自然林(天然林)が広がり、我が国最大規模のまとまりをもつ原生流域として特筆されます。」
7	2. 価値・魅力	まず、この段落は、内容的に、次の段落に記述されている動物とともに、アイヌ文化の前の 3~4 段落目に位置づける方が本公園の自然の理解を容易にします。 また、この段落における植物の記述内容は、間違いが多いので、以下のように修正すべきです。「日高山脈北部では、最高峰である幌尻岳(標高 2,052m)をはじめ、1,900m を超える山々が連なり、稜線(風衝地)からカール地形(雪崩地や雪田など)に至る環境変化に応じて多様なお花畠(高山植物群落)が発達しています。山脈の中部から南部にかけては 1,800m 台から 1,500~1,300m 台へ標高が低くなりますが、山頂・山稜の風衝地と雪崩地に高山植物群落が成立しています。日高山脈の高山植物相は、固有種ヒダカキンバイソウや隔離分布種ヒダカゲンゲなど、古い山の成り立ちや特異な地形・地質と関係して他山系とは異なる特徴が認められます。森林も多様であり、全域に広くダケカンバ林が発達するほか、中腹(亜高山帯)の亜寒帯性常緑針葉樹林と山麓(山地帯)の針広混交林、アポイ岳を含む南端部の山麓では、北海道では珍しいミツデカエデやアカシデなどが混生する冷温帯性落葉広葉樹林や針広混交林、さらにはキタゴヨウとアカエゾマツが混生するかんらん岩地と結びつ		御意見のとおり修正します。なお、No. 7 の御意見を踏まえて表現を見直し、「山の成り立ちが古いこと」を「山脈の成り立ち」に修正します。

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

		いた針葉樹林が広がっています。」		
8	2. 價値・魅力	<p>「地形・地質」の表現を次のように見直すことができないかご検討願います。</p> <p>案原文「山の成り立ちが古いことや特異な地形・地質を有する本公園では、～」</p> <p>修正案「山の成り立ちが古く特異な地質に発達した地形を有する本公園では、～」</p> <p>理由:日高山脈の形成史を考えるうえで地質と地形は分けて表現すべきと考えます。</p> <p>地質に関して学界では、プレート衝突から変成岩体の生成、初期の隆起が概ね25百万年前(地質学論集第47巻 1997.1ほか)と認識されているようです。また、地理学界の特に第4紀学では、当山脈の「氷河地形」や「周氷河地形」の形成期が支笏、樽前などの火山灰テフラ等を用い研究されており(古いところでは、平川、小野、小疊など)、現在の地形は概ね1万から数千年前に成立したと考えられているようです。</p> <p>おそらく襟裳岬、アポイ岳や北日高カンラン岩体(額平岳)が地質イベントにより、山岳核心部のカール、ホルン、アレートなどが地形イベントにより造られたのだと思います。</p> <p>両者の形成年代は、明らかに千倍を超える時間軸により隔てられています。よって、文章表現として「地形・地質」を一からげに、「成立が古く」とくくることは、本国立公園が特筆すべき自然景観の形成史を表すには、いささかまとめすぎであり、現時点で確からしい適切な形成史の時間軸が表現できるよう修正案を提案します。</p> <p>なお、南紀熊野ジオパークの解説リーフレットで見た地形・地質の比喩として、ショートケーキの土台となるスポンジを焼き上げることが地質の形成で、スポンジをかたどつたり、生クリームでデコレーションすることが地形の形成という表現がされていました。となればイチゴが、たぶん植生です。</p>	<p>有識者に確認した結果、当該地域の地形と地質は複雑に絡み合っていることから、「地形・地質」と記載して問題ないと判断し、原案のまとします。なお、表現を見直し、「山の成り立ちが古いこと」を「山脈の成り立ち」に修正します。</p>	
9	2. 價値・魅力	日高山脈では、標高の高い北部を中心に氷食地形であるカール地形が認められます。しかし、ヨーロッパアルプスやロッキー山脈、あるいは日本アルプスなどに見られる、岩が露出し尖った山頂(ホルン)や鋸状に岩峰が並ぶ岩稜(アレート)は、現在の日高山脈では明瞭ではありません。		日高山脈襟裳十勝国立公園の公園計画書にある表現であり、国土地理院HPにも、幌尻岳や戸鳶

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

		<p>せん。いまの日高山脈は山頂も山稜も密に植生に被われ、上記地域と自然景観が異なります。日高山脈は、過去には上記地域と同様にホルンやアレートが明瞭であったと推測されますが、現在は、自然景観としての氷食地形はカール(圈谷)が主体になっています。したがって、ホルンとアレートの使用は止めた方が良いと考えます。</p>		<p>別岳等にはホルンやアレートがあると記載されていることから、原案のままとします。</p> <p>(参考)</p> <p><u>6.氷河・周氷河作用による地形</u>   国土地理院 (<a href="https://www.gsi.go.jp/kikaku/tenkei_hyoga.html#%E6%B0%B7%E9%A3%9F%E5%B0%96%E5%B3%B0">https://www.gsi.go.jp/kikaku/tenkei_hyoga.html#%E6%B0%B7%E9%A3%9F%E5%B0%96%E5%B3%B0</a>)</p>
10	2. 價値・魅力	<p>「さらに、本公園外の地域からも雄大な山々が連なる素晴らしい景観を見ることが出来ます。」の部分については、十勝平野から見る屹立した日高山脈が延々とした連なる雄大な眺望は、日本の他の地域ではありませんといわれるので、このことを日高山脈の価値・魅力として強調した方が良いと思います。</p>		御意見を踏まえ、段落を分けます。
11	3.現状と課題 (1)保護に関する事項	<p>保護に関する事項の現状と課題に関する記述は、極めて不十分で間違いが多いので、まず、自然科学の各分野の専門家の指導を得て改めて書き直すべきと考えます。</p> <p>8頁の図2(日高山脈襟裳十勝国立公園 重要な生態系の分布図)では、凡例として、高山生態系(高山帯・亜高山帯植生)、森林生態系(3種類の天然林)、河川生態系(主要河川)、ならびに海浜生態系(自然海岸植生)の4生態系が図示されており、この生態系ごとに保護に関する事項が記述されています。しかし、図2に示された上記生態系区分は、自然科学的に見て大きな間違いとなるため、生態系ごとの記述においても間違いが多く生じています。</p> <p>まず、高山生態系は、一般に、森林限界を超えた植生(非森林植生)の領域に使用されています。しかし、図2では、高山生態系の凡例が高山帯・亜高山帯植生とされて</p>		御意見を踏まえ、図2を修正します。

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

	<p>いるため、山頂・山稜にある非森林植生(ハイマツ低木林や各種高山植物群落)だけではなく、山腹急斜面(亜高山帯)に広く発達するダケカンバ林を合わせて高山生態系と呼んでおります。植生生態学的にみると、日高山脈における高山生態系は、山頂・山稜・カール地形・沢の源頭部・かんらん岩地などに限られるため、それらの面積は図示よりかなり小面積になるのが実際です。このような高山生態系には、固有植物、隔離分布植物をはじめとする希少生物が集中していますので、日高山脈の生物多様性保全上、高山生態系は正しく示される必要があります。</p> <p>次に、日高山脈の森林生態系は、実際には、亜高山帯のダケカンバ林と常緑針葉樹林、山地帯の針広混交林と落葉広葉樹林から構成されています。図2における森林生態系は、山脈に広く発達するダケカンバ林を除外していますので、森林生態系が極めて不正確に示されています。日高山脈の亜高山帯以下に見られる森林生態系は、森林施業対象外であったダケカンバ林が原生林として広大な面積を占める点に大きな特徴があり、同様に施業対象外であった亜高山帯常緑針葉樹林の「沙流川源流原始林」やアポイ岳一帯のかんらん岩地における国指定特別天然記念物「アポイ岳高山植物群落」と天然記念物「幌満ゴヨウマツ自生地」の各森林が原生林として特記されます。</p> <p>図2は、森林施業対象とされる「天然林」の分布図を基本とし、それを生態学的に間違った凡例(4つの生態系)に当てはめて引用した点で、多くの間違いを生じさせています。図2では、森林施業対象外であるダケカンバ林が高山植物群落と一括され、天然林から除外されていたが、生態系分布図に間違って読み替えたことになります。</p> <p>林学・林業上の「天然林」は、植生生態学における「自然林(原生林を含む)」に概ね該当しますが、「二次林」も含み、「人工林(植林)」と対比されます。このことは、環境省による「植生自然度」の区分によって理解できます。植生生態学や人為の影響度合いを示す植生自然度の観点から、天然林ではなく自然林(天然林)と表現することが正しくなります。</p> <p>したがって、生態学から見て大きな間違いを含むので、図2の使用を止め、環境省作成の現存植生図と植生自然</p>	
--	---	--

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

		<p>度図に代えるべきです。そこでは、高山帯・亜高山帯・山地帯の植生が区分されており、生態系区分に重要な資料になります。そのことによって、ビジョン案の間違いがはるかに減少すると判断します。</p> <p>ただし、環境省現存植生図は凡例が多いので、日高山脈全域の植生・生態系を正確かつ簡略に図示するためには、植生専門家の指導を得て、詳細凡例を包括的な凡例に括り直し、保護と利用に関する基本図として作成する必要があります。</p>	
12	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項・高山生態系	<p>高山生態系に関する記述は、南端のアポイ岳に重点が置かれ、日高山脈全域の特徴がほとんど記述されていません。高山生態系の多くは、山頂・山稜(風衝地)とカール地形(雪崩地と雪田)に発達しています。風衝地ではヒダカゲンゲ、ユキバヒゴタイなどの隔離分布植物、雪崩地ではヒダカキンバイソウなどの固有植物、雪田ではタカネクロスゲなどの隔離分布種が見られ、カール内の岩塊堆積地では氷期の生き残り(遺存種)であるエゾナキウサギが見られます。比較的狭い高山生態系に日高山脈の生物多様性を特徴づける希少生物が集中しています。このような比較的狭い高山生態系に登山道やキャンプ地が重なつておらず、またエゾシカの食害が高山植生に及んでいますので、保護と利用を考える前に、自然の現状を早々に把握する必要があります。希少生物や貴重な高山生態系における現状把握は、ビジョンに明記されるべき重要課題です。</p> <p>南端のアポイ岳周辺はもちろん特記されますので、その記述は残し、日高山脈全域の高山生態系について上記のような記述を加える必要があります。</p>	<p>御意見を踏まえ、p.6、1行目以降の文章を以下のように修正します。</p> <p>「山脈の成り立ちや特異な地形・地質に関係して、比較的狭い高山生態系には、日高山脈の生物多様性を特徴づける固有種や隔離分布種が多く生息・生育します。</p> <p>高山生態系の多くは、山頂・山稜(風衝地)とカール地形(雪崩地と雪田)に発達しています。風衝地ではヒダカゲンゲ、ユキバヒゴタイなどの隔離分布種、雪崩地ではヒダカキンバイソウなどの固有植物、雪田ではタカネクロスゲなどの隔離分布種が見られます。」</p>
13	3. 現状と課題	本パラグラフは、よく読めばそうではないとわかるのですが、アポイ岳のみを取り扱っている印象を受けます。アポ	No.12、13の御意見を踏まえ、修正しま

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

	(1)保護に関する事項 ・高山生態系	イ岳は、本国立公園の中でも特異な低標高地に高山生態系が成立していることに疑いはありません。7行目最後段「また、～」からが、アポイ岳以外の高山生態系を扱ったものと思いますが、他のエリアも触れていることがわかるよう修正をご検討願います。 (修正案) 「特にアポイ岳は、ヒダカソウなどの固有種や希少な隔離分布種が集中し、アポイ岳高山植物群落は国指定特別天然記念物に指定されています。また、国内では唯一のヒメチャマダラセセリの生息地です。」→「特にアポイ岳は、ヒダカソウなどの固有種や希少な隔離分布種が集中し、国指定特別天然記念物に指定されているアポイ岳高山植物群落は、国内で唯一のヒメチャマダラセセリの生息地でもあります。」	す。
14	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・高山生態系	「地形・地質」の表現を次のように見直すことができないかご検討願います。理由は4項 24 行目と同様です。 案原文「日高山脈には、 <u>成り立ちが古く特異な地形・地質</u> があり、固有種や隔離分布種が多く生育します。 修正案「日高山脈には、 <u>成り立ちが古く特異な地質に発達した地形</u> があり、固有種や隔離分布種が多く生育します。」	No.12 の修正に合わせ、以下のように修正します。 「山脈の成り立ちや特異な地形・地質と関係して、」
15	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・高山生態系	「希少」は、あえて使用しなくてもよいと思料します。5行目で希少植物の例示として「ヒダカソウ」があがっていることと、再度ヒダカソウを「希少」とすることで、よからぬ考え方を持つ方々が、ことさらヒダカソウを注目するおそれが高まると考えています。「希少」に関しては、この箇所で例示していますが、他の項や段落に共通の意見です。 (修正案) 「しかし、ヒダカソウなどの希少植物は度々盗掘の被害を受け、大きく個体数が減りました。」→「しかし、ヒダカソウなどの植物は度々盗掘の被害を受け、大きく個体数が減りました。」 「…によっても、希少種の生育基盤が脅かされています。」→「…によっても、貴重な高山生態系の基盤が脅かされています。」	御意見のとおり修正します。
16	3. 現状と課題 (1)保護	「保護団体」を「市民団体」とするよう検討できないでしょうか。ここにあげられた活動は、山岳会、北海道自然保護協会、山トイレの会など具体的なプレーヤーがあるものが	御意見のとおり修正します。

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

	に関する事項 ・高山生態系	上がっていると思います。十勝や日高地域の関係者とくに各種の現場レベルではしばしば保護と対立する構図がこれまで多くあり、「保護」という語感が、中々に強い負の印象を与えます。今後本ビジョンによる活動が、地域へ浸透していくことを目指すのであれば、「市民団体」といった「行政によらず自発的に活動する集団」という意味合いにするほうがビジョンの浸透や進行上は、望ましく思えます。 (修正案) 「一方で、保護団体による…」→「一方で、市民団体による…」	
17	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・森林生態系	「日高山脈は広大な森林を擁し、原生的な森林も見られます。森林にも多様なタイプがあり、針広混交林のほか、北部には亜寒帯性の針葉樹林、南西部には冷温帯性の落葉広葉樹林、またアポイ岳一帯のかんらん岩地帯にはキタゴヨウとアカエゾマツを主体とする針葉樹林が広がっています。」この表現は、曖昧であり、間違いを含んでいますので、以下の文案に代えていただきたい。  「日高山脈は広大な森林生態系を擁しており、多様な群落タイプが認められます。そのうち、全域にわたって急峻な山腹斜面に発達するダケカンバ林、保護地域である北部沙流川源流域の亜高山帯(亜寒帯)常緑針葉樹林、ならびに南端部アポイ岳周辺かんらん岩地のキタゴヨウ・アカエゾマツ林は、それぞれ原生林として特記されます。そのほか、全域の亜高山帯(亜寒帯)常緑針葉樹林と、山地帯(冷温帯)の針広混交林と落葉広葉樹林という、道内に普通な森林も自然林(天然林)として広がっています。	御意見を踏まえ、以下のとおり修正します。  「日高山脈は広大な森林生態系を擁しており、多様な群落タイプが認められます。そのうち、全域にわたって急峻な山腹斜面に発達するダケカンバ林、保護地域である北部沙流川源流域の亜高山帯(亜寒帯)常緑針葉樹林、アポイ岳周辺にあるかんらん岩地のキタゴヨウ・アカエゾマツ林は、それぞれ原生林として特記されます。そのほか、全域にわたり亜高山帯(亜寒帯)には常緑針葉樹林、山地帯(冷温帯)の針広混交林や落葉広葉樹林が植生自然度の高い状態で分布していま

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

			す。」
18	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・森林生態系	「山地の岩場には氷河期の生き残りと言われるエゾナキウサギが生息しています。」について、以下の理由から修正が必要です。エゾナキウサギは、七つ沼カールなど高山生態系の岩塊堆積地に生息しており、一方で、山腹～山麓(亜高山帯～山地帯)の風穴地(岩塊堆積地)にも見られます。このような分布は、大雪山の高山帯と大雪山東麓(十勝～北見地方)の風穴地にわたる分布と似ています。したがって、以下の修正を願います。「七つ沼カールなど高山生態系に生息する氷期の生き残りと言われるエゾナキウサギは、札内川流域や猿留川流域など低標高の風穴地にも点在して生息しています。」なお、岩場は崖地と岩塊堆積地を含みますが、エゾナキウサギ生息地は崖地ではありませんので、岩塊堆積地と記すべきでしょう。	原案の「山地の岩場」は不正確と理解し、他方、ご提示の生息地の情報を具体的に記載することは保護の観点から懸念があるため、生息環境は記載しないものとす。
19	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・河川生態系	<p>河川生態系の記述において、魚類や水生昆虫の内容が記述されていません。このことは、河川生態系の生物主体を書かないので、よろしくないと思います。山脈のサケ科魚類には、アメマスのような降海魚、オショロコマのような陸封魚、移入されたニジマスなどが認められ、地球温暖化との関係からオショロコマが源流域に閉じ込められ、さらに減少することが危惧されています。このような現状が書かるべきであり、河川生態系の課題は、他の生態系にもつながりますが、まずは現状把握から保護と利用を考える観点を明記すべきと考えます。</p> <p>なお、ヤシャゼンマイやアポイタヌキランは河川沿いで時に冠水する生育地にある渓流植物ですが、エゾトウウチソウとソラチコザクラは必ずしも河川と結びつかない湿った崖地の植物ですので、河川生態系の中で記述することに違和感が生じます。後の2種は省略すべきです。</p> <p>なお、ケショウヤナギのような氾濫による搅乱が多い河床、その周辺の河岸段丘面に成立するドロヤナギ林など、河床林・河畔林が河川生態系の中で述べてよいのか、あるいは森林生態系ではないか、再確認する必要があると思います。</p> <p>生態系として記述するのであれば、水生昆虫・魚類・シマフクロウ・キタキツネ・エゾヒグマなど生き物のつながり(食物連鎖)について、簡単であっても触れるべき思います。</p>	<p>御意見を踏まえ、修正します。</p> <p>なお、河川が生み出す環境(岩場や渓畔)に成立する生態系についても含めた記述としているので、2、3段落目の御意見については、原案のままとします。</p>

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

20	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・河川生態系	「河川生態系も～」→「河川生態系が～」とするほうがよいと思います。文意として、前段「森林生態系」の大きな広がりから河川との関連性が在る部分に限定し、助詞「も」を使われたと思いますが、本書の読み手からは、単に豊かな河川生態系が日高山脈にあることが理解できれば良いので、格助詞「が」の使用で足るものと思います。	御意見のとおり修正します。
21	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・河川生態系	「するため <u>は</u> ～」→「するため <u>に</u> (には)～」とするほうがよい。「には」の単純な記載ミスかと思われます。意味合いとして、「に」も「には」もいずれでも通ずると思いますので、修正ご検討のほどお願いします。	御意見のとおり修正します。
22	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・海浜や海洋の生態系	図2では海浜生態系(自然海岸植生)と図示されており、本文では海洋生態系として沿岸生態系の内容が記述されています。これらの混乱は誤解を招きますので、整理された記述に推敲していただきたい。	御意見を踏まえ、図2を修正します。
23	3. 現状と課題 (2)利用に関する事項 ・登山利用等  図3: 日高山脈襟裳十勝国立公園 主要な路線・施設の分布図	図3の主要路線には、以下の歩道(登山道)が示されています。山脈の南から北に向かって、豊似湖・猿留山道・豊似岳、様似山道・アポイ岳～ピンネシリ、楽古岳(西尾根)、神威岳、ペテガリ岳、コイカクシュ札内岳・ヤオロマップ岳・1839峰、カムイエクウチカウシ山、イドンナップ岳、十勝幌尻岳、幌尻岳・戸鳶別岳・ピパイロ岳、チロロ岳、剣岳、芽室岳および日勝峠・ペケレベツ岳です。  このうち、山脈北部の最高峰幌尻岳周辺や中部のペテガリ岳や神威岳、および南部の楽古岳、アポイ岳、豊似岳などへの登山道以外には国土地理院地図(2万5000分の1)において歩道(幅員1m以下)として表示されているものはありません。山稜上にある登山道も登山道として整備されたものではなく、昔からの登山者の歩行によって自然発生的にできたものである。このように、日高山脈の登山道は、地元の登山関係者により整備されている一部の登山道を除き、登山道として管理されているもの	記載されている路線は、すでに日高山脈襟裳十勝国立公園の公園計画に定める道路(歩道)を示すものであり、原案のままとします。

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

		<p>は少ないです。例えば、カムイエクウチカウシ山の登山道は札内川八ノ沢沿いの踏み跡、そして上部では沢そのものであり、特にコイカクシュ札内岳山頂より南のヤオロマップ岳～1839峰間は登山道とは言えない踏み分けに過ぎません。したがって、国土地理院地図(2万5000分の1)に歩道(幅員1m以下)として表示されていないルートについては、安全確保と希少種・希少群落の保護の観点から、保護と利用のゾーニングが検討されていない現段階では、図3の歩道から除外すべきと考えます。もちろん、既存のルートについても安全確保と希少種・希少群落の保護の観点から再検討することは言うまでもありません。</p> <p>全般に、日高山脈の登山道は、多くが山頂・山稜上やカール内で希少種を含む高山植物群落の中に設けられており、これまで登山者が設置してきたキャンプ地も諸処に認められます。したがって、希少種と希少植物群落の保護の観点から、慎重な現状把握が必要です。その上で、管理すべき登山道の設定や利用の程度を検討すべきと考えます。こうした登山道は、長い間、多数の登山者が利用してきた明瞭な歩道(国土地理院地図に示されている登山道)とは異なりますので、上記のような現状把握と慎重な検討を行わずに、ビジョン案に明示することには強く反対いたします。</p>	
24	3.現状と課題 (2)利用に関する事項	<p>(パブコメ案)また、高山植物の踏みつけ、 (意見) また、回復困難な稜線部やカールでの高山植物の踏みつけ、(文言の追加) (理由) 現状の課題をより明確にすることで、実効性の高い厳格な保護、適正な利用の推進に結びつけるため</p>	御意見のとおり修正します。
25	3.現状と課題 (2)利用に関する事項	<p>一定のマナーの周知や遵守が利用者各自の判断に委ねられることとなり、マナーの理解度が利用者によって温度差があるのでビジョン案で望んだような適切なマナー遵守がきちんとなされるのか疑問です。</p> <p>そうであるならば地元自治体および登山団体など幅広く日高山脈界隈で活動を行う利害関係者において、地域ルールを設定し、利用者に対して明確な指針を示すことが必要なのではないかと考えます。</p> <p>(修正案)</p> <p>「高山植物の踏み付け、野営による裸地化や、焚火の跡、</p>	御意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 「高山植物の踏み付け、野営による裸地化や、焚火の跡、ゴミの投棄、トイレ跡などが確認されているため、 <u>地域ルールの設定</u> や一層のマナー等

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

		ゴミの投棄、トイレ跡などが確認されているため、一定のマナー等の周知の取組とともに、登山者のマナー遵守が求められます。」→「高山植物の踏み付け、野営による裸地化や、焚火の跡、ゴミの投棄、トイレ跡などが確認されているため、地域ルールを設定した上で一定のマナー等の周知の取組とともに、登山者のマナー遵守が求められます。」		の周知の取組とともに、登山者の <u>ルール・マナー遵守</u> が求められます。」
26	3. 現状と課題 (2)利用に関する事項 ・眺望を生かした観光等	この中に、「山麓部における豊かな自然を活かした自然に対する学びや体験の場の提供」が記されております。このこと自体については、賢明な利用の観点から推進に賛成します。ただし、低標高の山麓においても希少種が見られ、低標高地の自然林が見られますので、人為の影響を与える場合には、その利用の程度や規模にかかわらず、自然の現状把握と影響評価をすると明記していただきたい。  上記の 5 頁 4~5 行目のところで指摘した、日本の他の地域ではあまりないと思われる十勝側の延々と連なる雄大な日高山脈の眺望を本公園の大きな特徴として強調すべきです。		オーバーユースの懸念、本公園外の地域からも雄大な山岳景観が一望できる点について触れているので、原案のままとします。なお、No.28 の御意見も踏まえ、(3)管理運営体制に関する事項の欄に自然の現状把握と影響評価に関する記述を追記しました。
27	3. 現状と課題 (3)管理運営体制に関する事項 ・関係機関・関係団体・関係者等 (以下「関係者」という。)との連携	本公園の管理運営では、多くの方々が連携する体制が必要であることが記されています。このことは、後述している 4. 基本理念 (3)連携・協働の推進と、5. 国立公園としてのビジョン(あるべき姿、目指すべき将来像)(3)みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園において、繰り返し記述されています。関係者みんなで管理・運営を行う体制について、基本的には賛成します。  しかし、保護と利用に関わる国立公園地域の自然の現状把握を担う体制についてはまったく触れられていません。日高山脈は、峻険な地形と管理された登山道が少ない状況に現れている原生的自然の広がりに大きな特徴があります。このことは、自然科学的研究が容易に進まない現状につながり、世界自然遺産に指定されている知床半島によく似ています。日高山脈の自然に関する既存研究には、重要なものが少なくありませんが、定期的な自然の現状把握がなされているとは言えない状況が続いております。本公園のビジョン(パブコメ版)も、近年の現状把握に		科学者を関係者に含むことを排してはおりません。事務局によるヒアリングの実施、協議会へのアドバイザーとしての招へいなどにより、必要に応じて意見を聞くものとします。

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

		基づいているとは決して言えません。 したがって、山脈の自然を知る研究者の組織を設置する必要があります。知床世界自然遺産における科学委員会と同様な組織を、上記「関係者」の中に位置づけ、その中で本公園の保護と利用の兼ね合い、登山道やキャンプ地の在り方、保護と利用のゾーニングなどについて、まずは科学的に検討することが極めて重要と考えます。次に書かれている利用プログラムの充実も重要ですが、保護と利用の兼ね合いを判断できる保護プログラムの充実もまた本公園の大きな目的になりますので、その組織を「関係者」の中に位置づけるべきです。	
28	3. 現状と課題 (3)管理運営体制に関する事項 ・利用施設・拠点・体験プログラムの充実 ・自然・歴史・文化の学習のための人材・ソフトの充実	これらは、本公園の利用に関して、重要な項目と考えます。しかしながら、広大な山麓(山地帯ないし亜高山帯)における利用と、とりわけ貴重な山頂・山稜(高山生態系)における利用とは区別した保護・利用計画が必要です。いずれにおいても自然に悪影響を及ぼさない利用の方法を考えていく必要があります。本公園の賢明な利用に関して、それぞれの自然の現状把握から始まり、自然の特徴の周知・自然教育と実際の保護管理に至る体制を用意する必要があります。 例えば、山麓における自然を把握し、自然教育に反映させる仕組み、自然ガイドの充実が求められ、他方で、高山生態系における自然の現状を把握し、賢明な利用を考える体制を構築していただきたいと考えます。そうした内容の記述をぜひ加えていただきたいと考えます。	御意見を踏まえて、以下のとおり追記します。 「自然環境モニタリング等により負荷の度合いを把握し、必要に応じて改善する仕組みを取り入れたり、」
29	4. 基本理念 (2)適正な利用の推進	(パブコメ案)山や海への畏敬の念をもって行動し、 (意見) 山、森、川、海への畏敬の念をもって行動し、 (文言の追加) (理由) パブコメ案の「山」のイメージが漠然とし人によって捉え方が異なるため、「山」に包括されがちな森林と河川の位置付けと重要性を明確にするため	御意見のとおり修正します。

## 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)への御意見及びそれに対する考え方について

		<p>本公園は原生的な森林と河川を有すること</p> <p>本公園の原生的な自然や豊かな生物多様性は、森林と河川が深く関わっていること</p> <p>本公演の独特の生態系や景観の連続性は、森林と河川が深く関わっていること</p> <p>アイヌの信仰や祈りでは、森の神、川の神を重要視しそれぞれ敬っていること</p>		
30	4. 基本理念 5. 国立公園としてのビジョン(あるべき姿、目標すべき将来像)	<p>標記の基本理念とビジョンに関して、それぞれ(1)自然環境の厳正な保護と(1)原生的な自然とその恵み、後世まで守り伝えていく国立公園、(2)適正な利用の推進と(2)利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園、そして(3)連携・協働の推進と(3)みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園と記されています。以上は、非常に重要な項目として、賛同できます。</p> <p>しかし、既に述べたように、原生的な自然の広がりに特徴がある本公園において、保護と利用のバランスを科学的に検討する必要があります。そのため、知床世界自然遺産における科学委員会的な研究者組織を設置し、多くの国民と道民の方々と連携する体制を重視すべきと考えます。上記のそれぞれの(3)にそのことが明記されることが肝心と考えます。</p>		科学者を関係者に含むことを排してはおりません。事務局によるヒアリングの実施、協議会へのアドバイザーとしての招へいなどにより、必要に応じて意見を聞くものとします。
31	参照文献	参考文献に、行政委託の各種報告書が多く見られます が、基礎とすべき研究論文、特に最近の文献があまりない ようです。「地質に関する総合的な文献」では、日本地質学会(編集)「日本地方地質誌 1 北海道地方」(朝倉書店)など最近の総合的な文献を参考されることを望みます。また、動植物の文献に関しては、ビジョンに挙げられた項目ごとに多数の文献が引用されており、それらの文献に目を通されていないためにビジョン案に間違いが生じたと考えます。このことは、日高山脈の自然に関して保護と利用を考える上で基礎となる参考文献の引用が不十分であること、そして自然科学研究者の参加がビジョン案作成段階でも必要なことを示しております。		御意見を踏まえ、参考とする文献を増やし、内容の事実確認及び修正を行うとともに、今後ビジョンに基づき具体的な取組を検討していくにあたっての参考とさせていただきます。